

YAMAHA Electone **EL-50**

取扱説明書

ごあいさつ

このたびは、ヤマハエレクトーンEL-50をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

ヤマハエレクトーンEL-50は、先進のエレクトロニクス技術と豊かな音楽性、楽器づくりのノウハウを結集して完成させた、最新鋭のエレクトーンです。

リアルで美しい音色をはじめ、幅広いジャンルのリズム、洗練された各種の効果、素早いセッティングを可能にするレジストレーションメモリー機能、音楽の楽しみ方を格段にアップするミュージックディスプレイコーダーなどの機能を搭載したEL-50は、演奏表現を強力に支援する親しみやすい、良きパートナーとなることでしょう。

本書では、EL-50を正しく、そして楽しくお使いいただけますよう、取り扱い方法をわかりやすく説明しています。ご使用の前に、ご一読ください。

主な特長

豊富な音色

AWM音源とFM音源によるリアルで美しい音色が、49種類内蔵されています。

鍵盤を押す強さを表現

上鍵盤および下鍵盤を押す瞬間と、その後に鍵盤を押す強さが、そのまま表現されます。

幅広い音楽ジャンルに対応

リズムは、38種類内蔵されています。

音色に各種の効果

内蔵されている音色にいろいろな効果をかけて、音色をさまざまに変化させることができます。

音色の組み合わせ

鍵盤(音色群)ごとに音色を選んで、組み合わせとして記憶させることができます。また、リズムや効果の設定もいっしょに記憶させることができます。

自分の演奏を録音

録音して、いつでも再生可能なミュージックディスプレイコーダーを搭載しています。

操作性を重視

20文字×2段のディスプレイを見ながら、各種の設定ができます。

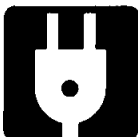
ご使用上の注意



必ず、AC100Vのコンセントから電源を。

電源プラグは、必ずAC100Vのコンセントであることを確かめた上で、接続してください。

大型クーラーやセントラルヒーティングの電源用にAC200Vや、船舶内にはDC（直流）電源のコンセントがあります。それらに誤って接続すると大変危険ですので、ご注意ください。



電源プラグの取り扱いに注意。

ぬれた手で電源プラグにふれると、感電する恐れがありますので、ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜く時は、電源プラグ自体を持って抜いてください。



エレクトーンの内部には、絶対ふれないで。

エレクトーンの改造や部品の取り外しは大変危険ですので、絶対にしないでください。故障と思われる場合は、お買い求めの楽器店、もしくはP224に記載されているサービスセンターまでご連絡ください。



エレクトーンの内部に水などが入った場合は。

誤って水や異物が内部に入ってしまった場合は、すぐに電源を切ると共に、電源プラグを抜いた上で、お買い求めの楽器店、もしくはP224に記載されているサービスセンターまでご連絡ください。



電源を切り忘れないように。

電源を入れたまま長時間放置すると、思わぬ故障の原因になることがありますので、ご使用後は必ずパワースイッチを押して、電源を切ってください。

音楽を楽しむエチケット



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

	本書の使い方	2	
	基本操作の流れ	3	
	操作/パネル早見表	3	
	弾いてみましょう	4	
	各部の名称とはたらき	10	
	ディスプレイとボタン	14	
	覚えておきたい用語	16	
基本編	基本レジストレーション	18	
	音・色	19	
		音色を選ぶ(ボイスメニュー)	20
		音色の発音状態を決める(ボイスコンディション)	24
		音色名の表示に戻す操作	35
	リズム	リズムを選ぶ(リズムメニュー)	36
		リズムをコントロールする	39
		リズムに関する設定をする(リズムコンディション)	43
		キーボードパーカッション	48
		A.B.C.(オートベースコード)を使う	50
		M.O.C.(メロディーオンコード)を使う	54
	効果(I)	効果の種類について	56
		リバーブ(残響)効果	57
		サステイン(余韻)効果	58
	レジストレーションメモリー	レジストレーションをメモリーボタンに記憶させる	60
	レジストレーションメニュー(ディスク)	レジストレーションメニューを使う	63
		レジストレーションメニューの表示に戻す操作	65
		レジストレーションメニューの組み合わせと解説	66
活用編	トウローワー	音色を下鍵盤に移す	70
	ドットボタン	設定した音色をドットボタンに登録する	71
		設定したリズムをドットボタンに登録する	74
	効果(II)	トレモロ(ファースト)	79
		エフェクトセット(ディレイ/フランジャー/シンフォニック)	80
	リズムプログラム・パターン	リズムプログラム(パターン)について	86
		新しいリズムを作る	88
		リズムをエディットする	106
	リズムプログラム・シーケンス	リズムプログラム(シーケンス)について	113
		リズムの順序を決める(シーケンス)	114
	フットスイッチ	フットスイッチについて	127
	右フットスイッチ	レジストシフト	128
	左フットスイッチ	リズム(ストップ/エンディング/フィルイン)	135
		グライド	137
	リセット	パワーオン・リセット	139
	「演奏の録音・再生」		
	ミュージックディスクレコーダー	ミュージックディスクレコーダー(MDR)について	142
		フロッピーディスクについて	147
		ディスクをフォーマット(初期化)する	149
		レジストレーションデータの記録	151
		演奏を録音する	156
		いろいろな録音のしかた	160
		レジストレーションのデータだけを差し替える	169
		演奏を再生する	171
		曲をコピーする	183
		曲を削除する	185
	「他の楽器と組み合わせる」		
	音程/移調	音の高さを変える(ピッチ/トランスポーズ)	188
	MIDI	MIDI端子について	190
	MIDIを使うと	191	
	MIDIの設定	193	
	MIDIメッセージ一覧	199	
付録	末永くお使いいただくために	206	
	EL-50の仕様	207	
	用語辞典	210	
	おかしいな?と思ったら	215	
	五十音索引	217	
	アフターサービスと保証	223	
	ヤマハ電気音楽製品アフターサービス拠点	224	

本書の使い方

■本書の構成

本書は、大きく分けて、「基本編」、「活用編」、「付録」の3つの構成になっています。

エレクトーンを初めてお使いになる方は、エレクトーンの簡単な操作が記載されている「弾いてみましょう」を経験されることをお勧めします。次に、「基本編」をお読みになり、基本操作の理解を深めてください。

エレクトーンの操作に慣れた方は、辞書をひくような感覚で、「活用編」をお読みください。

■本書の表記の統一について

各機能の説明ページでは、表記の方法が次のように統一されています。

機能説明：どのような機能なのかを説明しています。

操作方法：操作手順が実際の例をもとにして説明しています。

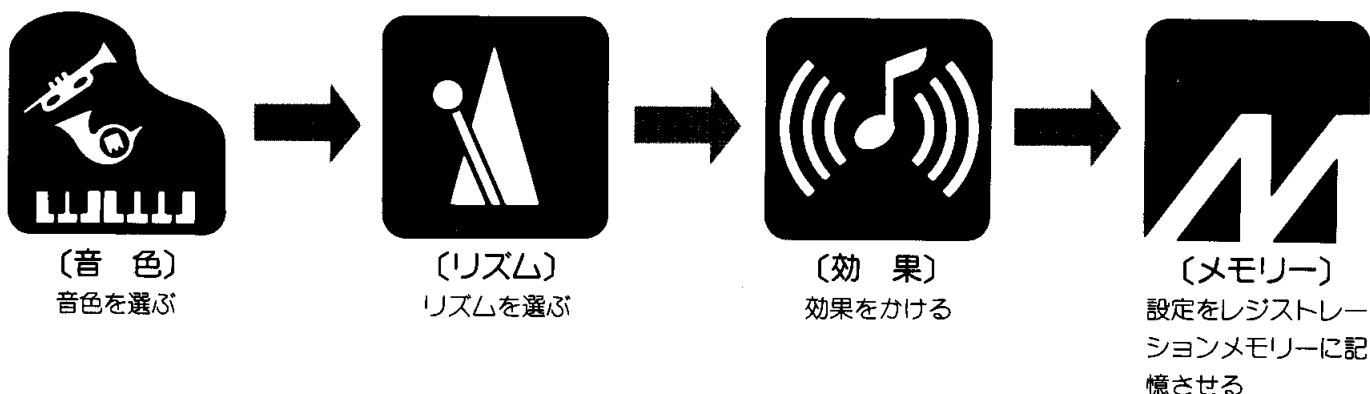
操作のポイント：その機能の操作中に、特に重要な事項を説明しています。

注意：特に注意していただきたい事柄を説明しています。

こんなこともできる：その機能に関連する他の機能を説明しています。

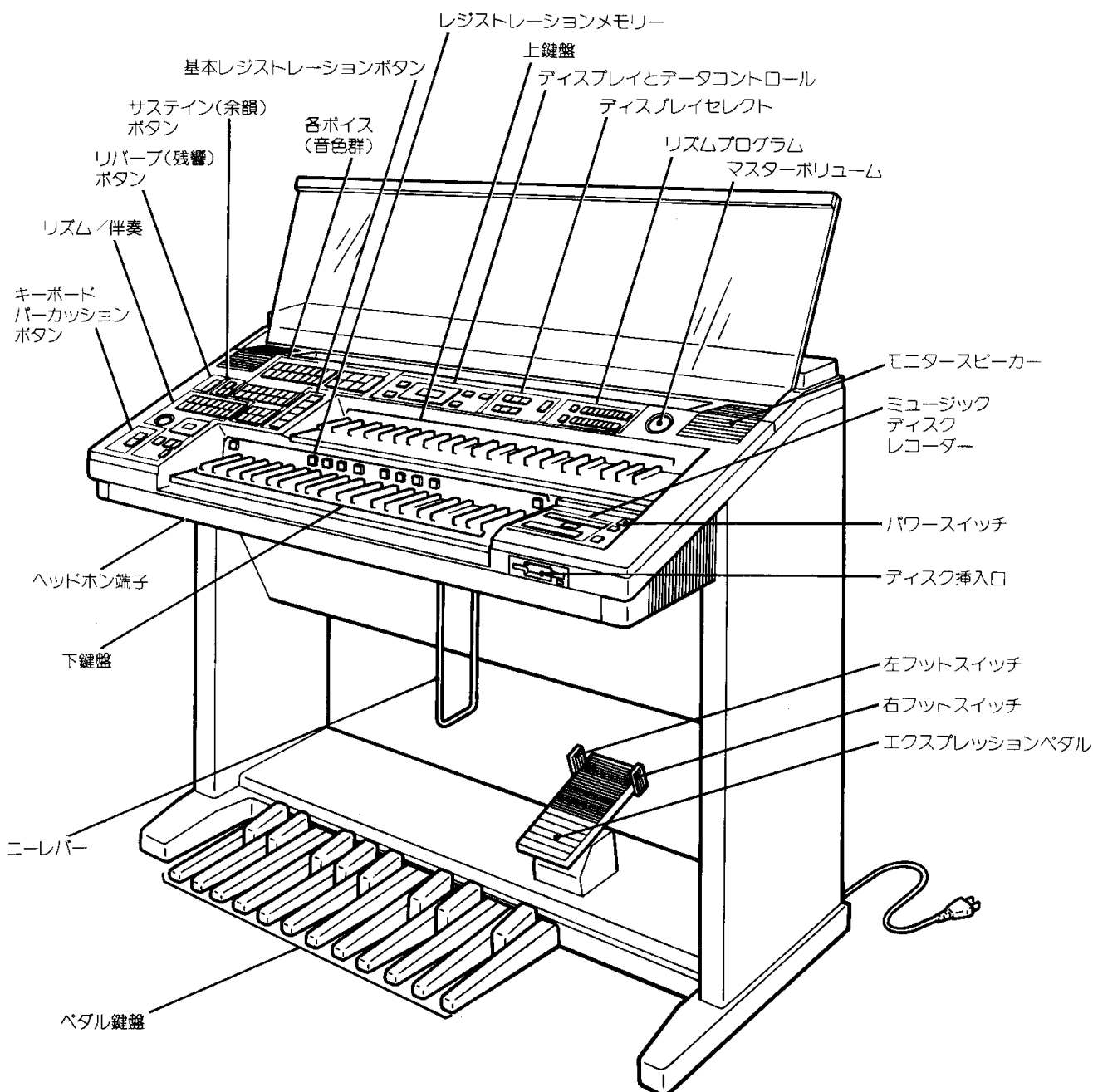
基本操作の流れ

基本操作の流れは、「音色」→「リズム」→「効果」→「メモリー」のように4段階に分けられます。「基本編」では、ここで使われている絵文字と同じものが記載されており、どの段階の機能であるかを一目で確認できます。



操作パネル早見表

EL-50の操作パネルが、大きく分けられています。各操作で使う箇所を捜し出すときに便利です。

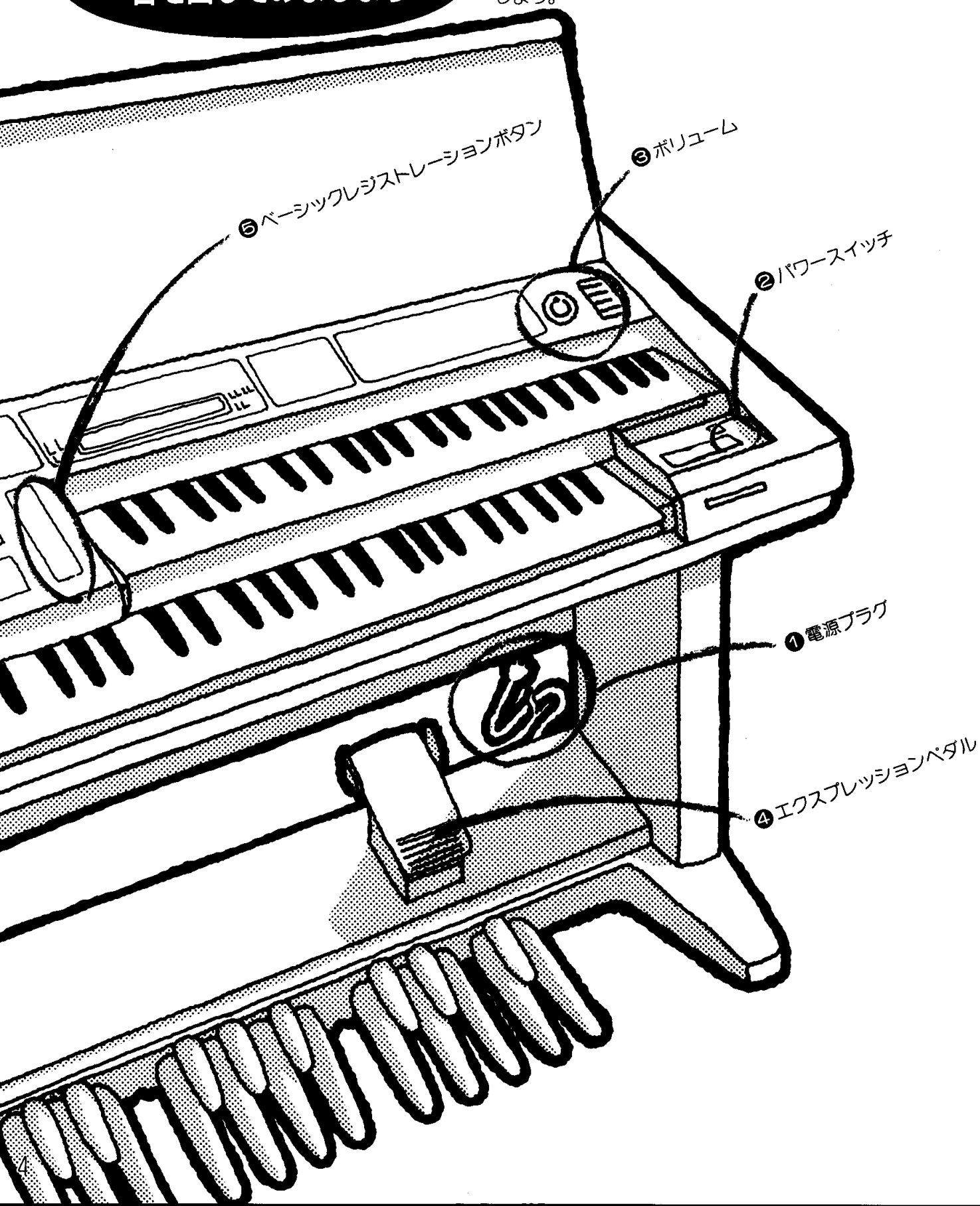


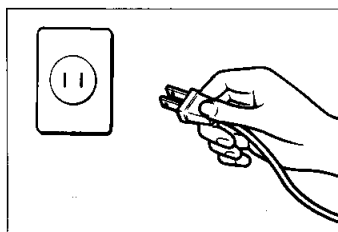
弾いてみましょう

ここでは、EL-50を初めてお使いになる方のために、簡単な操作について紹介します。
では、EL-50を使って演奏してみましょう。

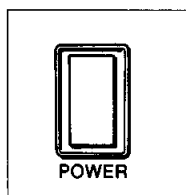
音を出してみましょう

まずは、音を出すための準備をして、実際に音を出してみましょう。

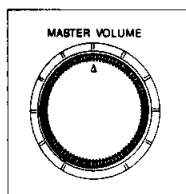




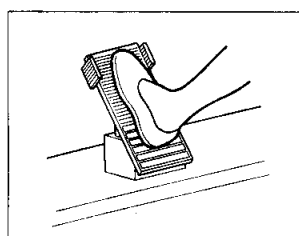
1 電源プラグをコンセント(AC100V)に差し込みます。



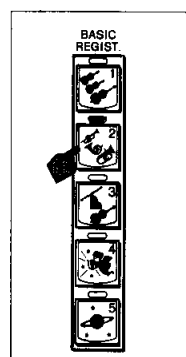
2 パワースイッチを押します。



3 マスターボリュームを中央にセットします。
●エレクトーン全体の音量を調節します。



4 エクスプレッションペダルを右足で踏み込みます。
●踏み込む量によって、演奏しながら音量を調節することができます。



5 ベーシックレジストレーションの〔2〕ボタンを押します。

6 演奏してみましょう。

アビニョンの橋の上で

Moderato

フランス民謡

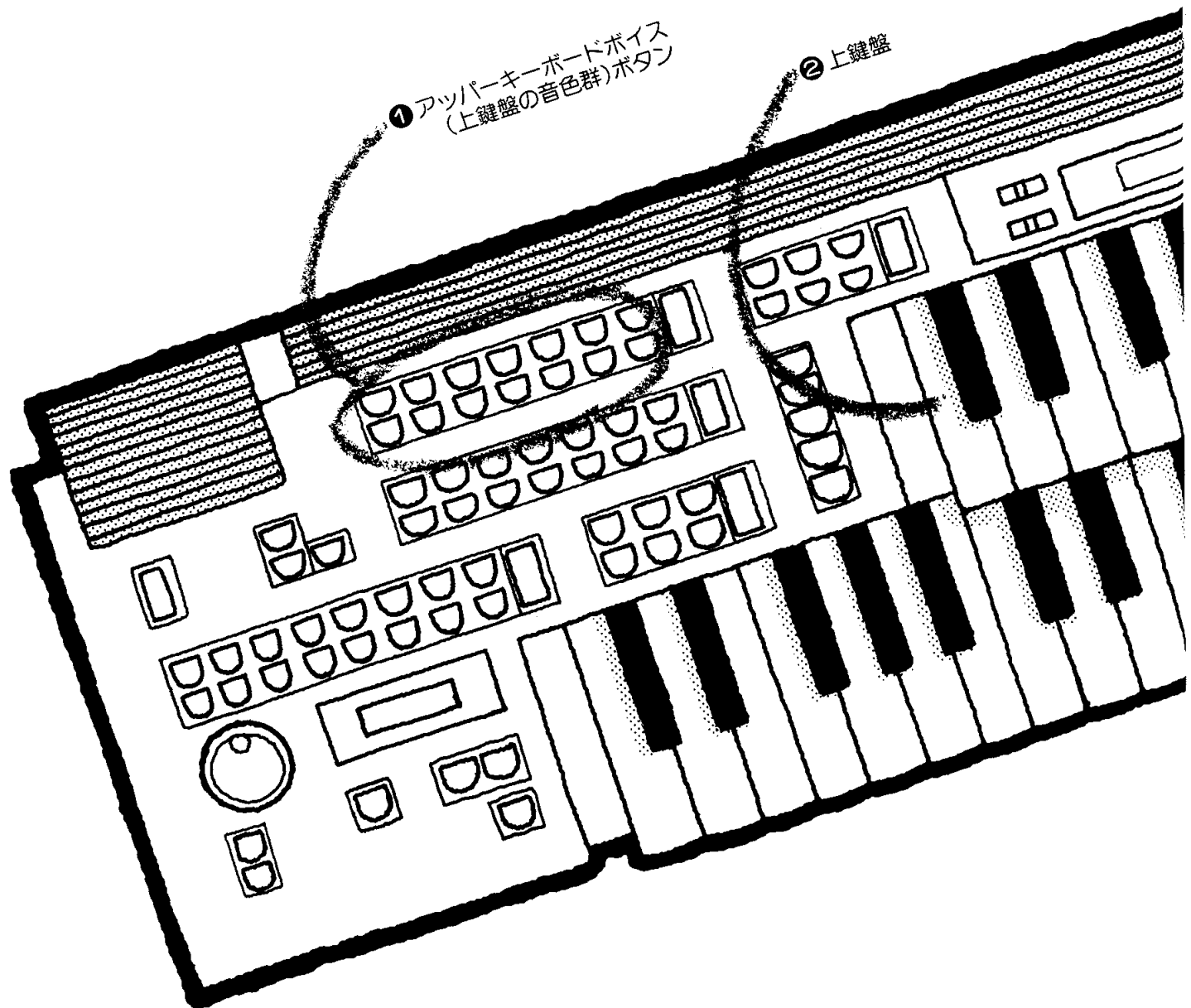


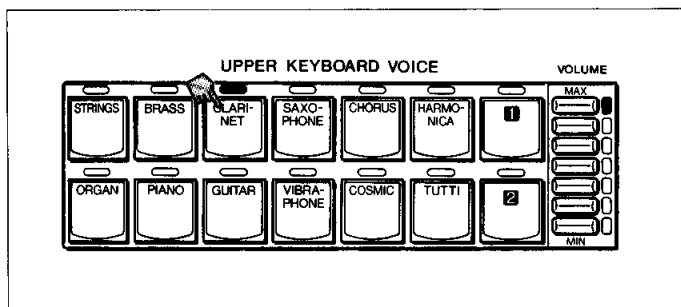
これで音が出ましたね！ では次に音色を選んで、演奏したい音に変えてみましょう。

音色を変えてみましょう

上鍵盤の音色を、「クラリネット」の音に変えてみましょう。

「音色」について→P20参照





1 アップーキーボードボイスの〔CLARINET〕
(クラリネット)ボタンを押します。

- 上鍵盤が「クラリネット」の音色になります。
- アップーキーボードボイスのボリュームボタンを確認します。
- 下鍵盤やペダル鍵盤の音色を変える場合も、同じように操作します。

2 一曲を通して演奏してみましょう。

アビニヨンの橋の上で

Moderato

フランス民謡

上鍵盤

下鍵盤

ペダル鍵盤

C G7 C G7

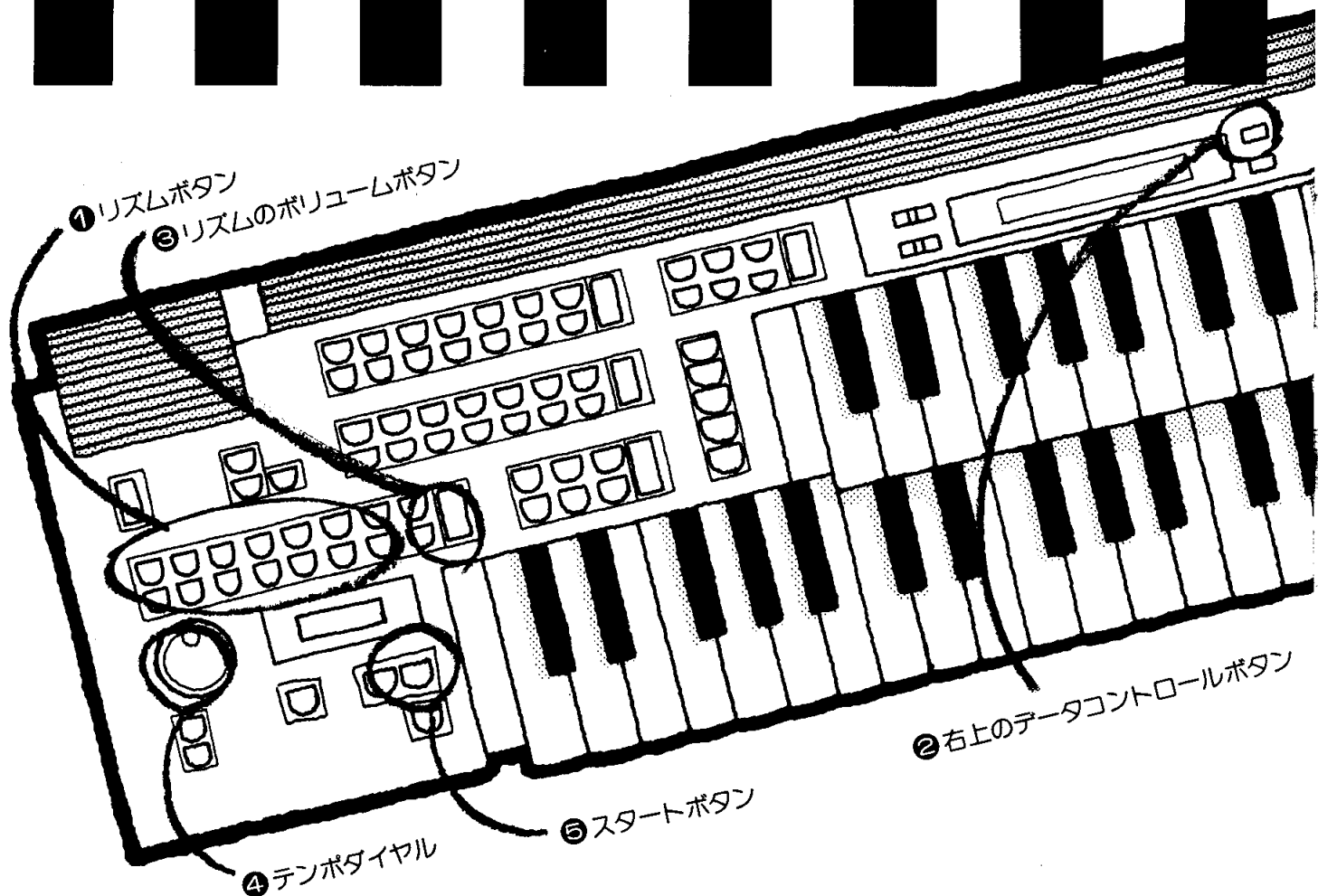
C G7 C G7 C

C G7 C C G7 C

Fine

D.C.

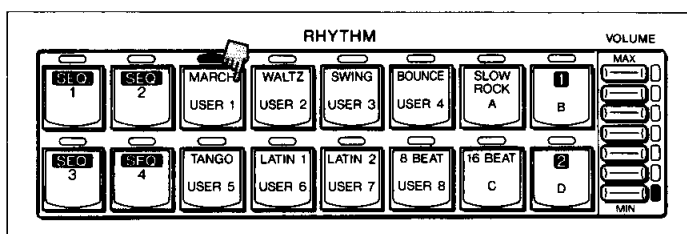
これで、上鍵盤でクラリネットの音色が出ましたね！ では次にリズムを選んで演奏してみましょう。



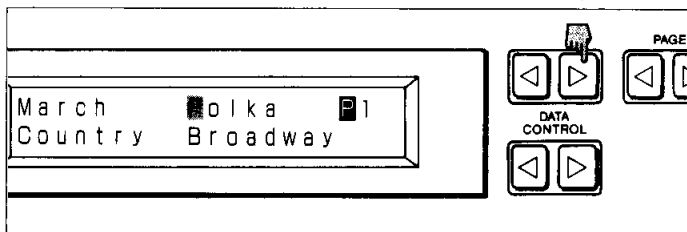
リズムを選んで演奏してみましょう

いろいろなリズムの中から、「ポルカ」のリズムを選んで演奏してみましょう。

「リズム」について・P36参照

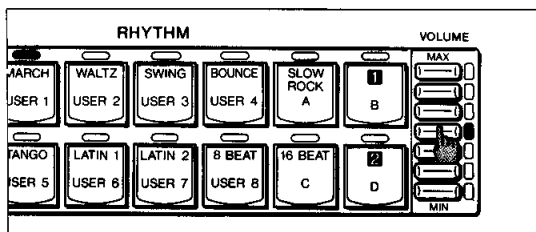


1 リズムの〔MARCH〕(マーチ) ボタンを押します。



2 右上のデータコントロールボタン〔<〕〔>〕を押します。

●「ポルカ」のリズムになります。

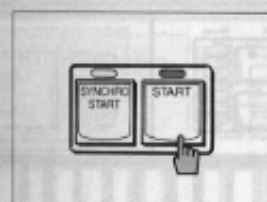


3 リズムのボリュームボタンを押します。

●リズムの音量が上がります。



4 テンポダイヤルを回して、テンポを「90」にします。



5 (START)(スタート)ボタンを押します。
●リズムがスタートします。

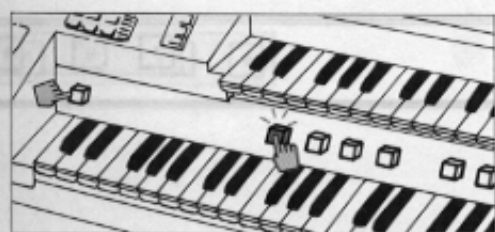
6 「クラリネット」の音色で、「ポルカ」のリズムに合わせて、演奏してみましょう。

7 演奏が終わったら、もう一度(START)(スタート)ボタンを押します。
●リズムがストップします。

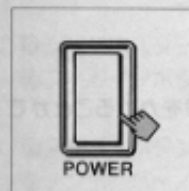
これで、EL-50の使い方が分かりましたね！ では演奏したあと、電源を切る前に次のことを確認してみましょう。

電源を切るまえに

ここまでに設定した音色やリズムの内容は、そのまま電源を切ると消えてしまいます。電源を切る前に、必ず、設定した内容をメモリーボタンに記憶させましょう。ここでは、「クラリネット」の音色と、「ポルカ」のリズムを、メモリー(1)に記憶させてみましょう。「メモリー」について→P60参照



1 赤い(M./TO DISK)(メモリー/トゥーディスク)ボタンを押しながら、メモリーボタン(1)を押します。
●これで、メモリーできました。



2 パワースイッチを押して、電源を切ります。
●これで、次にパワースイッチを入れた時に、レジストレーションメモリーボタン(1)を押すだけで、設定した内容がそのままパネルに呼び出されます。

EL-50のパネル(音色、リズム)の設定を記憶させたものを、「レジストレーション」と言います。つまり、演奏ができる状態の音色やリズムなどの組み合わせのひとつひとつを指している言葉です。

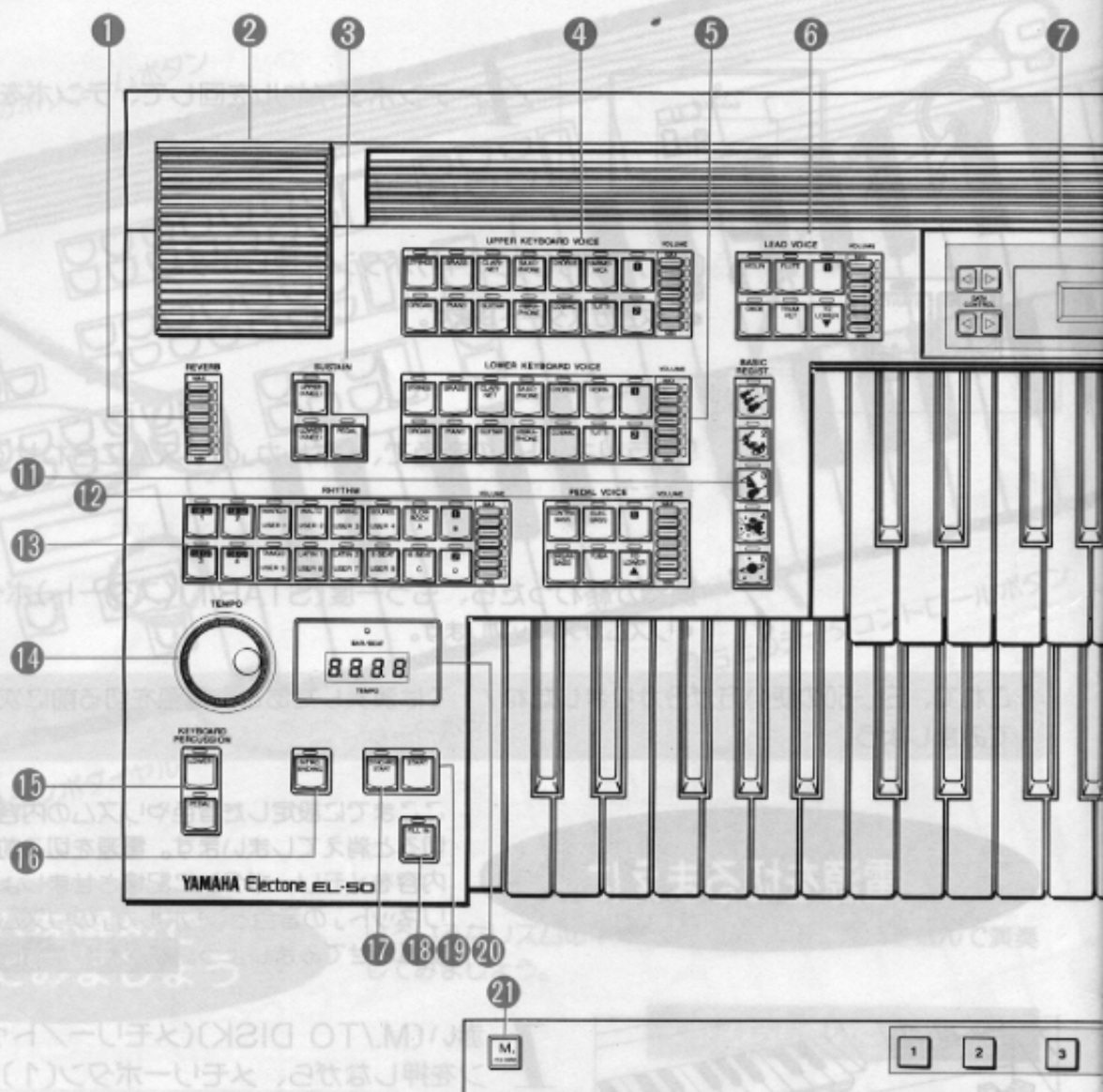
エレクトーンでよく使う言葉ですので、覚えておいてください。

*レジストレーションは、略して「レジスト」とも言います。(例:「レジストメモリー」、「レジストシフト」など)

記憶させたレジストレーションや作成したリズムパターンは、EL-50の電源を1週間に1回以上入れないと消えてしまいます。フロッピーディスクに記録して残しましょう。(「レジストレーションデータの記録」について→P151参照)

EL-50の楽しさを感じていただけましたか。 EL-50は、豊富な機能を持っていますので、お楽しみください。

各部の名称とはたらき(パネル)



①リバーブボタン(→P57参照)

②モニタースピーカー

③サステイン(→P58参照)

④アッパーキーボードボイス(→P22参照)

⑤ローキーボードボイス(→P22参照)

⑥リードボイス(→P22参照)

⑦ディスプレイとデータコントロール(→P13参照)

⑧ディスプレイセレクト(→P13参照)

⑨リズムプログラム(→P87、P114参照)

⑩マスターボリューム(→P5参照)

⑪ベーシックレジストレーションボタン(→P19参照)

⑫ペダルボイス(→P22参照)

⑬リズム(→P36参照)

⑭テンポダイヤル(→P41参照)

⑮キーボードパーカッションボタン(→P49参照)

⑯イントロ/エンディングボタン(→P40、41参照)

：全体にかかるリバーブ(残響)効果の深さを調節できます。

：自分の演奏がよく聞こえるように、ここからも音が出ます。

：上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤ごとに、サステイン(余韻)効果をかけることができます。

：上鍵盤の音色を選んだり、音量を調節できます。

：下鍵盤の音色を選んだり、音量を調節できます。

：リード演奏用の音色を選んだり、音量を調節できます。

：様々な設定で使うディスプレイとボタンです。

：ディスプレイの表示を目的の表示にするためのボタンです。

：リズムのパターンを作ったり、リズムの再生順序を設定するときを使うボタンです。

：エレクトーン全体の音量を調節できます。

：基本レジストレーションにするときの選択ボタンです。

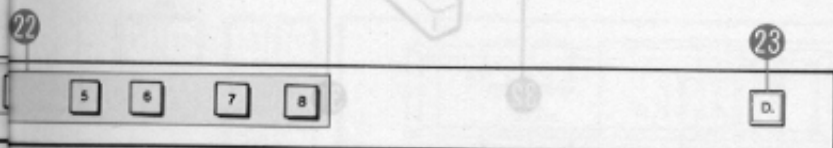
：ペダル鍵盤用の音色を選んだり、音量を調節できます。

：リズムパターンを選んだり、音量を調節できます。

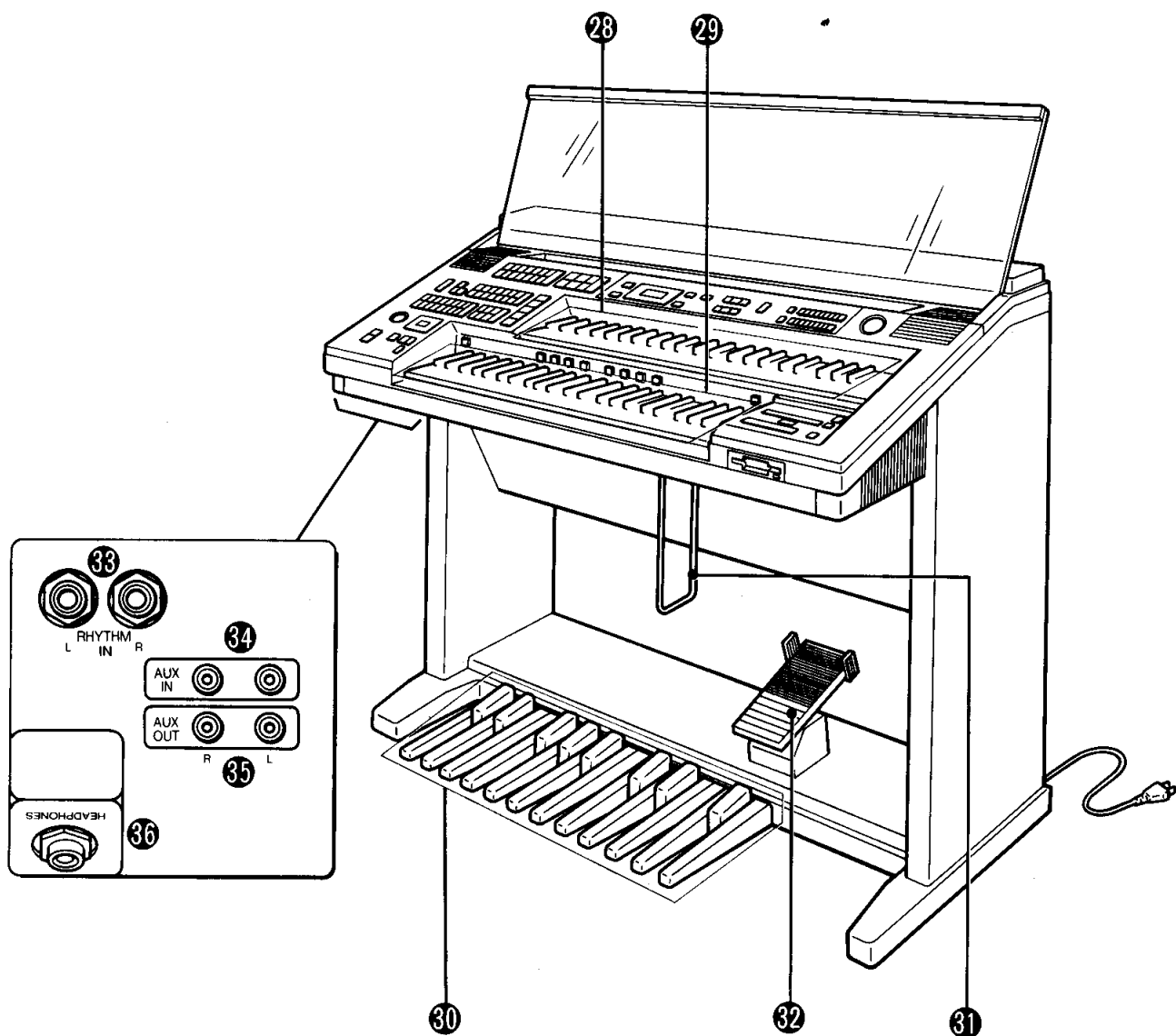
：リズムの速さを調節できます。

：下鍵盤やペダル鍵盤で打楽器の音を出すときに使うボタンです。

：イントロパターンからリズムをスタートさせたり、エンディングパターンでリズムを停止させることができます。



各部の名称とはたらき (全体図、付属端子)



⑳上鍵盤

㉑下鍵盤

㉒ペダル鍵盤

㉓ニーレバー(→P59参照)

㉔エクスプレッションペダル(→P5参照) : 演奏しながら、エレクトーン全体の音量をコントロールします。

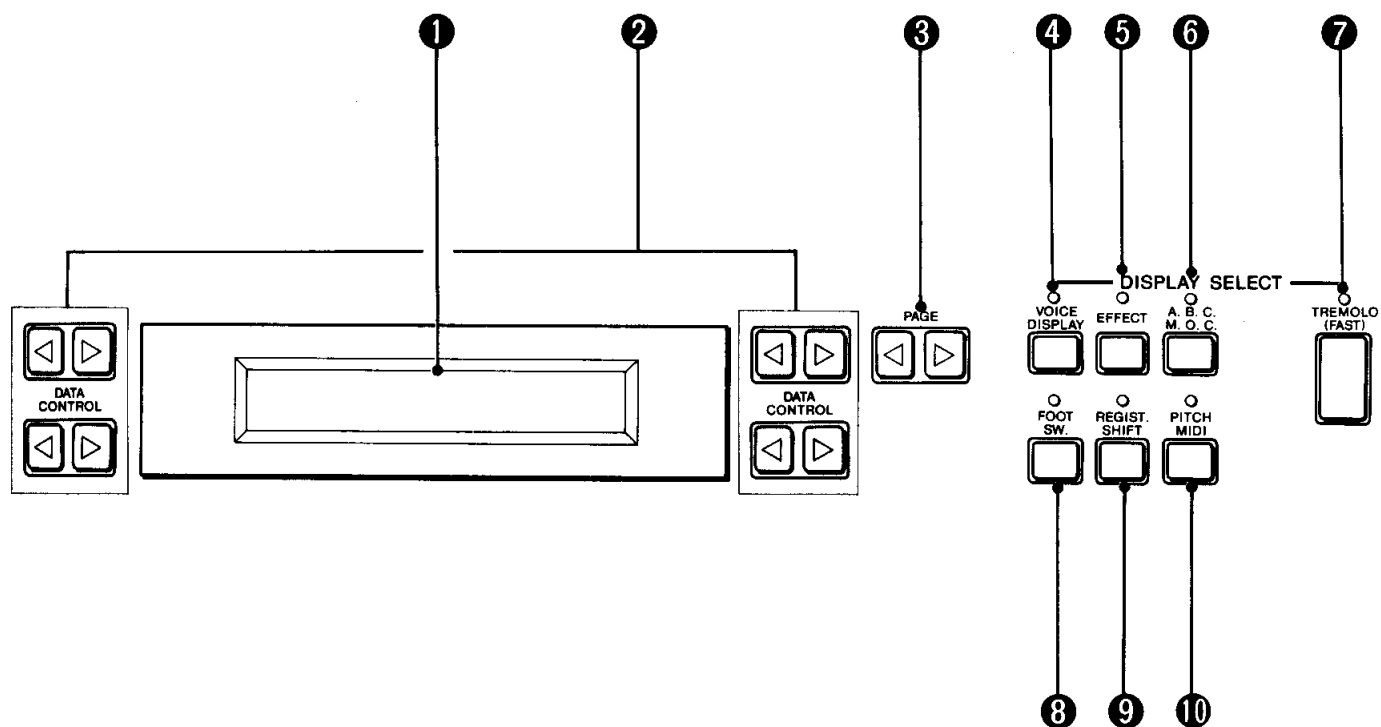
㉕リズム入力端子 : 他のリズムマシンからの信号をステレオ入力する端子です。

㉖ライン入力端子 : 外部機器からの音声信号をステレオ入力する端子です。この端子で入力した音の音量は、接続した外部機器で調節します。

㉗ライン出力端子 : キーボードアンプなどの外部スピーカーやミキサーなどに音声信号をステレオ出力する端子です。

㉘ヘッドホン端子 : ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホン以外の機器を接続することはやめてください。

各部の名称とはたらき (ディスプレイ、データコントロール、ディスプレイセレクト)



①ディスプレイ(→P14参照)

②データコントロールボタン(→P15参照)

③ページボタン(→P15参照)

④ボイスディスプレイボタン(→P35参照)

⑤エフェクトボタン(→P80参照)

⑥オートベースコード、メロディーオンコードボタン(→P52、54

⑦トレモロ(ファースト)ボタン(→P79参照)

⑧フットスイッチボタン(→P135参照)

⑨レジストシフトボタン(→P128参照)

⑩ピッチ/MIDIボタン(→P188、193参照)

: 現在使われている音色やリズムを表示したり、設定中のメニューが表示されます。

: 表示されたメニューの値などを変更できます。目的のメニュー横のボタンを使います。

: ひとつの機能の設定メニューが数ページに分かれている場合は、このボタンでページを変更します。

: アッパー、ロー、ペダル、リードボイスとして、それぞれ何という音色が選択されているか、一度に表示させることができます。

: ティレイ効果またはフランジャー効果をかけた場合の、それぞれの効果の設定値を表示させることができます。

: 伴奏機能の設定状態を表示させることができます。

参照): このボタンを押してランプを点灯させておくと、エフェクトの設定でトレモロを選んだ音に対してトレモロ(音が速く回転しているような)効果がかかります。

: フットスイッチを使ってできる機能の設定メニューを表示させることができます。

: 右フットスイッチを使って、レジストレーションメモリー番号を変更する機能の設定メニューを表示させることができます。

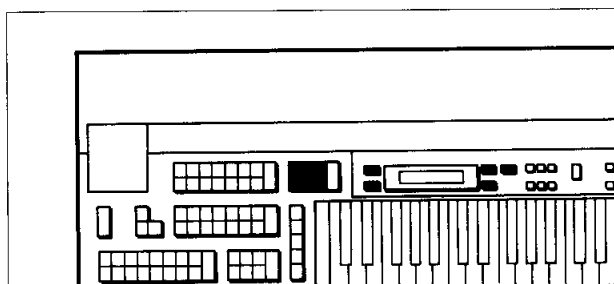
: エレクトーン全体の音程の微調節や移調機能、MIDIの設定メニューを表示させることができます。

ディスプレイとボタン

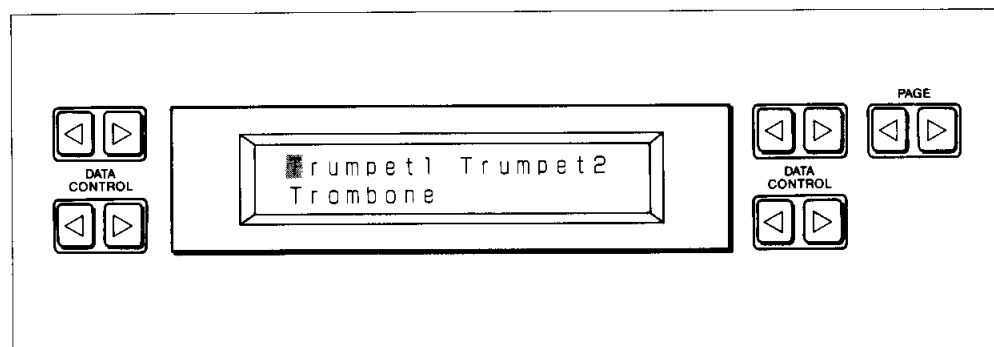
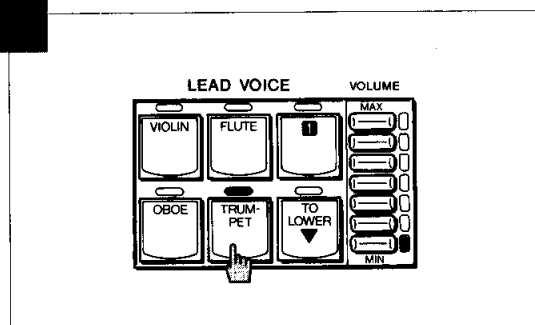
操作に応じて、ディスプレイには様々なメニューが表示されますが、ディスプレイと各部のボタンの間には、規則があります。ここでは、その規則を紹介します。

操作方法

ここでは、リードボイスに関連するメニューを表示させ、一部の値を変更する操作を例にして説明します。

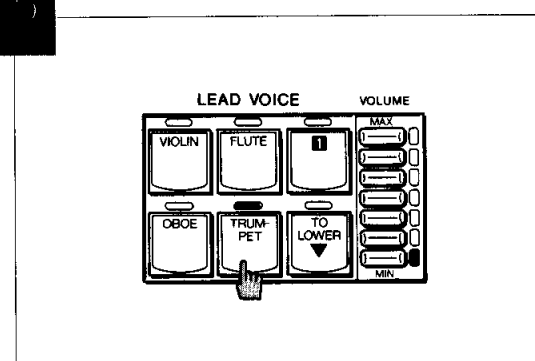


1 リードボイスの音色ボタンを押します。



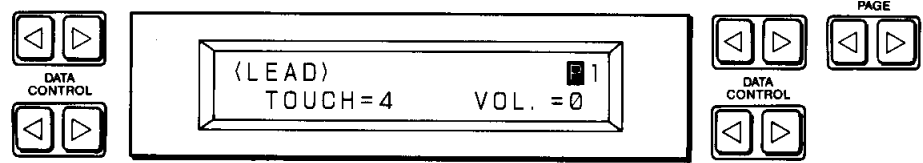
●音色ボタンを1回押すと、音色名の表示になります。

2 リードボイスのコンディションを表示させる場合は、もう1回同じボタンを押します。



●すでに目的の表示になっている場合は、この操作は必要ありません。

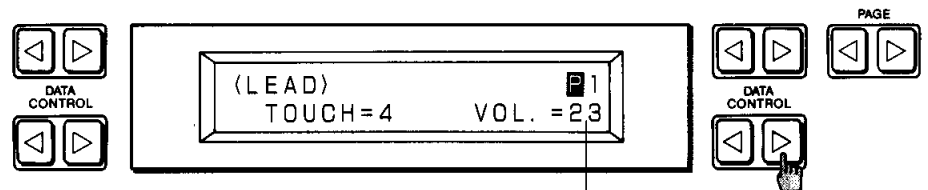
例) この場合はメニューが2つ表示されています。



- 押したボタンに関連するメニューが、ディスプレイに最大で4つ表示されます。

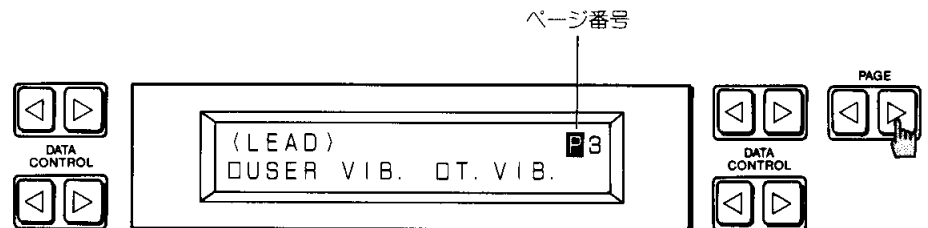
設定は、表示されたメニュー横のデータコントロールボタン〔＜〕〔＞〕で行います。

例) 「VOL.」(音量)の値を変える場合は、右下のボタンを押します。



他のページを表示させるには、ページボタン〔＜〕〔＞〕を押します。

例) たとえば、P3を表示させる場合は、ページボタン〔＞〕を2回押します。



- 関連するメニューが1ページで収まらない場合は、数ページに別れています。

🎵 操作のポイント

- 関連する最初の表示を出すためには該当するパネル上のそれぞれのボタンを押しますが、ディスプレイに表示された後の設定は、主にデータコントロールボタン〔＜〕〔＞〕や、ページボタン〔＜〕〔＞〕で行います。



覚えておきたい用語

●基本レジストレーション

EL-50にあらかじめセットされている音色の基本的な組み合わせ（音色に関連する設定、効果に関する設定の組み合わせ）です。1～5までの5種類の組み合わせがあり、ボタンを押すだけで基本設定にすることができます。

●レジストレーションメモリー

基本レジストレーションとは別に、自分で設定した音色や効果、リズムなどをレジストレーションメモリーボタンに記憶させる機能です。音色名と音色に関連する設定、リズム名とリズムに関する設定、効果に関する設定を、組み合わせとして記憶させることができます。

●音色

“おんしよく”と読み、記憶されている楽器の音のことです。EL-50には、全部で49種類の音色が記憶されています。

●音色群

アッパーキーボードボイス（上鍵盤用）、リードボイス（上鍵盤/リード演奏用）、ロワーキーボードボイス（下鍵盤用）、ペダルボイス（ペダル鍵盤用）という4つの音色群があります。

●ボイスディスプレイ

アッパーキーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイスでそれぞれ選択されている音色名を、一度に表示させる機能です。

●リズム

リズムパートの音のことです。EL-50には、38種類のリズムが内蔵されています。

●エフェクト

音の感じを変える効果のことです。EL-50には、全ての音にかかるとリバーブ（残響）効果をはじめ、音色群ごとにかかるとサステイン（余韻）効果やディレイ（こだま）効果など、様々な効果が内蔵されています。

●フィート

音色群ごとに設定できる音の高さのことです。

●タッチトーン

鍵盤を弾く強さによって、弾く音の音量や音色を変化させる機能です。

イニシャルタッチは、音の立ち上がりの音量・音色を変化させ、アフタータッチは、立ち上がった後の音量・音色をコントロールします。

基本編

操作の流れ	18
基本レジストレーション	
基本レジストレーションを使う	19
音色	
音色を選ぶ(ボイスメニュー)	20
音色の発音状態を決める(ボイスコンディション)	24
タッチトーンの設定	24
ボリュームファイン(音量をより細かく設定する)	26
フィートの設定	28
エフェクトの選択	30
ビブラートの設定	32
音色名の表示に戻す操作	35
リズム	
リズムを選ぶ(リズムメニュー)	36
リズムをコントロールする	39
リズムをスタート/ストップさせる	39
鍵盤を押すと同時にリズムをスタートさせる	39
イントロパターンからリズムをスタートさせる	40
フィルインを入れる	40
エンディングパターンでリズムをストップさせる	41
テンポを調節する	41
テンポ、バー/ビートディスプレイについて	41
リズムに関する設定をする(リズムコンディション)	43
オートパリエーションの設定	43
ボリュームファイン(音量をより細かく設定する)	44
アカンパニメントの設定	46
キーボードパーカッション	48
A.B.C.(オートベースコード)を使う	50
M.O.C.(メロディオンコード)を使う	54
効果(I)	
効果の種類について	56
リバーブ(残響)効果	57
サステイン(余韻)効果	58
レジストレーションメモリー	
レジストレーションをメモリーボタンに記憶させる	60
記憶させたレジストレーションを呼び出す	61
ディセーブルについて	62
レジストレーションメニュー(ディスク)	
レジストレーションメニューを使う	63
レジストレーションメニューの表示に戻す操作	65
レジストレーションメニューの組み合わせと解説	66

操作の流れ

エレクトーンの基本操作の流れは次のように4つに分かれます。なお、「基本編」では、この流れに沿って説明しています。

音色

- 各音色群の音色を選びます。
- 各音色群の音量を調節します。
- 各音色群の発音状態を決めます。(タッチトーンの設定、ボリュームファイン(音量をより細かく設定する)、発音の高さ(フィート)設定、効果(エフェクト)の選択、ビブラート効果の設定)
- 必要に応じて音色名の表示に戻す操作をします。

リズム

- リズムを選びます。
- リズムの音量を調節します。
- リズムをコントロールします。
- リズムに関する設定をします。(オートバリエーションのオン/オフ選択、ボリュームファイン(音量をより細かく設定する)、アカンパニメントの設定)

効果(I)

- リバーブ効果の設定をします。
- サステイン効果の設定をします。

メモリー

- 各設定および選択を、メモリーボタン(1)~(8)のいずれかに記憶させます。
- 記憶させた各設定および選択(レジストレーション)を呼び出します。

※「各設定および選択を、メモリーボタン(1)~(8)のいずれかに記憶させる」操作は、「音色」~効果(I)の全ての設定を行ってからでないといけないわけではありません。一部の設定をした時点で一旦記憶させてもかまいません。



機能説明

基本レジストレーションとは、EL-50にあらかじめセットされている音色の基本的な組み合わせのことです。1～5まで(5種類)の組み合わせがあり、ボタンを押すだけで希望する設定にすることができます。

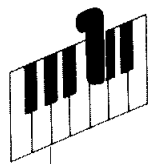
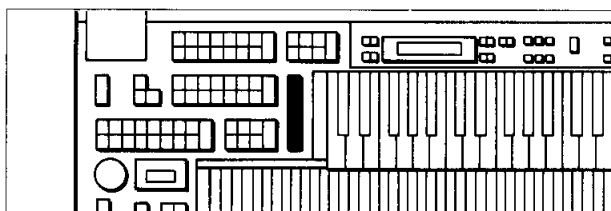
基本レジストレーション
一覧表

基本レジストレーション1～5の内容です。

番号	アッパーキーボード ボイス	ローキーボード ボイス	ペダルボイス
1	ストリングス1	ストリングス1	コントラバス
2	ブラス	ホルン1	チューバ
3	フルート	ピアノ	コントラバス
4	コスミック1	コスミック2	コスミック2
5	シンセブラス	コスミック3	シンセベース

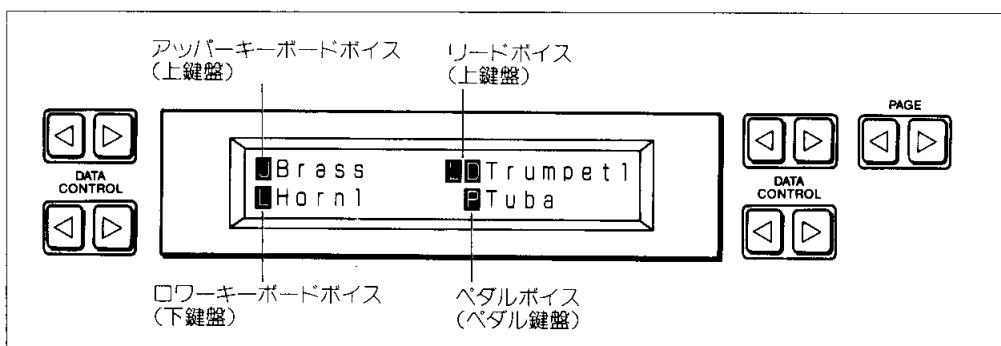
操作方法

基本レジストレーション2にする操作を例にして説明します。
他の基本レジストレーションにする場合も、操作は同様です。



ベーシックレジストレーションボタン(2)を押します。

- ランプが点灯して、基本レジストレーション2が呼び出されます。



- ディスプレイには、呼び出された基本レジストレーション2の音色名が一度に表示されます。
- 音色名以外の表示になっている場合は、ボイスディスプレイボタンを押して、音色名の表示にしてください。(→P35参照)

注意

- 電源を入れた時点で、必ず基本レジストレーション1になります。
- 基本レジストレーションでは、音色名以外は基本的な設定になっています。
- 基本レジストレーションでは、リードボイスのボリューム(音量)が0になっています。

音色を選ぶ(ボイスメニュー)

機能説明

上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をそれぞれ選んで演奏できます。

上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音色は、次のような音色群から選びます。

- 上鍵盤ではアッパーキーボードボイスだけでなく、リードボイスの音色を選んで演奏することもできます。

鍵盤	音色群
上鍵盤	アッパーキーボードボイス、リードボイス
下鍵盤	ロワーキーボードボイス
ペダル鍵盤	ペダルボイス

- ドットボタンを使えば、キーボードパーカッション以外の音色を選ぶことができます。

音色一覧表

それぞれの音色群に含まれている音色を紹介します。

アッパーキーボードボイス/ロワーキーボードボイス

上鍵盤の音色、および下鍵盤の音色として指定できる音色の一覧表です。

全音色共に複音で演奏できます。

音色ボタン	ボイスメニュー表示		解 説
ストリングス	ストリングス1	ストリングス2	弦楽器が何本も集まったような、厚みのある弦楽器の音色。
	ピチカートストリングス	—	
プラス	プラス	シンセプラス	金管楽器系の音色。
	—	—	
クラリネット	クラリネット	—	よくオーケストラや吹奏楽で使われる木管楽器（クラリネット）の音色。
	—	—	
サキソフォン	サキソフォン	—	リードの振動を音源にした木管楽器（サキソフォン）の音色。
	—	—	
コーラス	コーラス	—	複数の女性が“アー”と声を出してコーラスをしているような厚みのある音色。
	—	—	
ハーモニカ (アッパー専用)	ハーモニカ	—	ハーモニカの音色。
	—	—	
ホルン (ロワー専用)	ホルン1	ホルン2	円すい形をした金管楽器（ホルン）で、プラスよりも柔らかい音色。
	—	—	
オルガン	オルガン	ジャズオルガン	オルガン系の音色。
	ポップオルガン	アコーティオン	
ピアノ	ピアノ	エレクトリックピアノ	ピアノ系の音色。
	ハーブシコード	—	
ギター	ギター1	ギター2	ギター系の音色。
	エレクトリックギター	ハーブ	
ビブラフォン	ビブラフォン	グロッケン	ファン付きの共鳴管を持った鉄琴（ビブラフォン）など、打楽器系の音色。
	マリンバ	シンセチャイム	
コズミック	コズミック1	コズミック2	シンセサイザー等で作り出せる自然楽器にはない電子的な音色。
	コズミック3	コズミック4	
トゥッティ	トゥッティ1	トゥッティ2	弦楽器や管楽器で編成されたオーケストラタイプの音色。
	—	—	



リードボイス

上鍵盤のリード演奏用の音色として指定できる音色の一覧表です。

全音色共に単音（1音）でのみ演奏できます。複音で演奏した場合は、最高音の音だけが発音されます。

音色ボタン	ボイスメニュー表示		解 説
バイオリン	バイオリン	——	バイオリンの音色。
	——	——	
フルート	フルート	——	笛系の音色。
	ホイッスル	——	
オーボエ	オーボエ	バスーン	木管楽器系の音色。
	——	——	
トランペット	トランペット1	トランペット2	金管楽器系の音色。
	トロンボーン	——	

ペダルボイス

ペダル鍵盤の音色として指定できる音色の一覧表です。

全音色共に単音（1音）でのみ演奏できます。

音色ボタン	ボイスメニュー表示		解 説
コントラバス	コントラバス	ピチカートベース	弦楽器系のベース用音色。
	——	——	
エレクトリックベース	エレクトリックベース1	エレクトリックベース2	電気楽器、電子楽器のベース用音色。
	シンセベース	——	
オルガンベース	オルガンベース1	オルガンベース2	オルガンのベース用音色。
	——	——	
チューバ	チューバ	ティンパニ	金管楽器、打楽器のベース用音色。
	——	——	

同時発音数

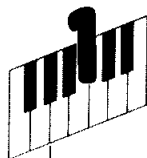
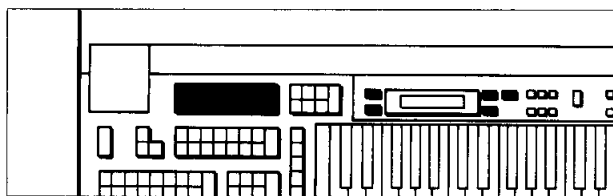
一度に鍵盤を押さえたときに発音させることができる音数は、次のような制限があります。

アッパーキーボードボイス、 ローキーボードボイス	上鍵盤と下鍵盤をあわせて、最大で11音同時に 発音させることができます。
リードボイス、 ペダルボイス	1音だけ発音させることができます。

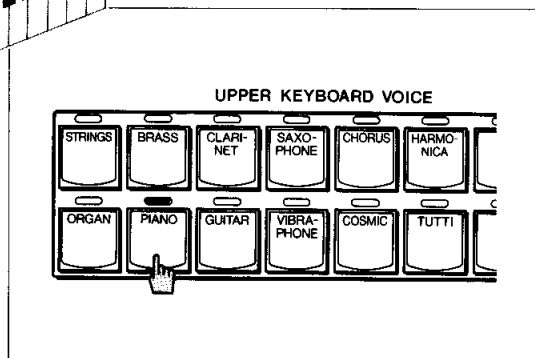
音色を選ぶ(ボイスメニュー)

操作方法

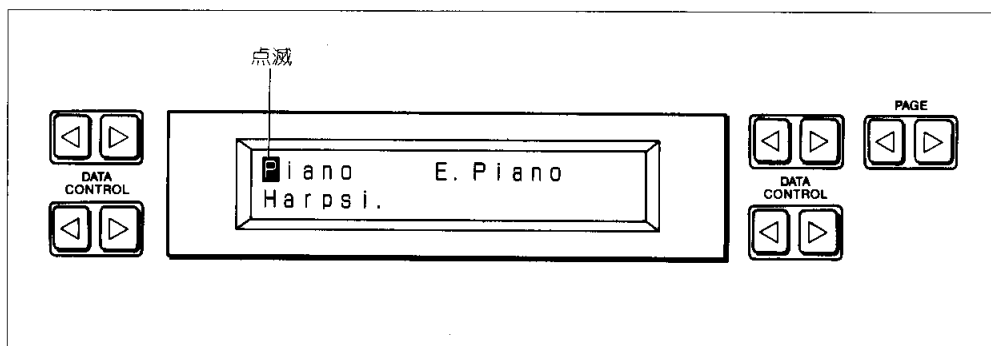
アッパーキーボードボイスを、ピアノの「E.Piano」(エレクトリックピアノ)の音色にして、アッパーキーボードボイスの音量を最大にする操作を例にして説明します。他の音色群の音色を選ぶ場合も、操作は同様です。



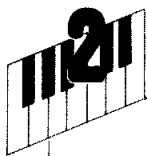
アッパーキーボードボイスの〔PIANO〕(ピアノ)ボタンを押します。



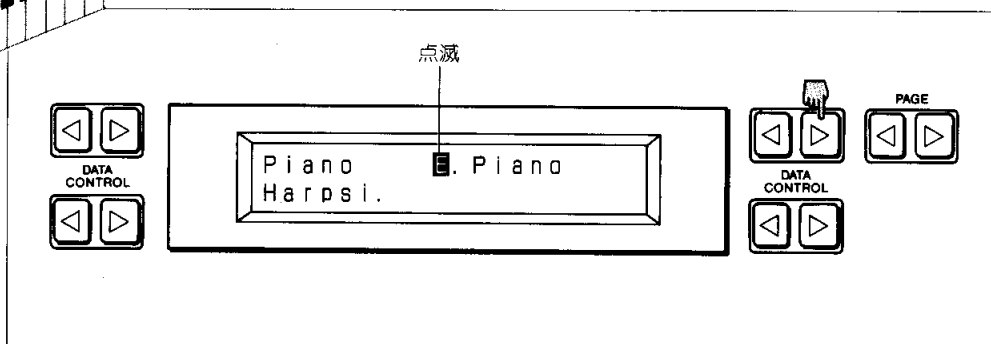
●〔PIANO〕(ピアノ)ボタンのランプが点灯します。



- ディスプレイには、〔PIANO〕(ピアノ)ボタンに属する音色名が、全て表示されます。(ボイスメニュー画面)
- それまで選ばれていた音色名の頭文字が点滅します。(頭文字と黒い四角の交互表示)



右上のデータコントロールボタン〔<〕〔>〕を押します。



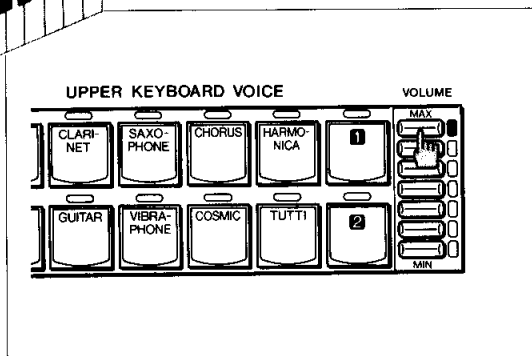
- 「E.Piano」の頭文字の「E」が点滅に変わります。
- 選択した音色で演奏できます。

これでアッパーキーボードボイスは、「E.Piano」の音色になりました。



アッパキーボードボイスのボリュームボタンを押します。

- 最上段のランプが点灯します。



これでアッパキーボードボイスの音量は最大になりました。



操作のポイント

- 各音色のボタンごとに、最後に選択した音色が記憶されています。このため、操作①で希望する音色が呼び出された場合は、操作②は必要ありません。

注意

- 電源を入れた時は、基本レジストレーション1の音色の組み合わせになります。音色名や音色に関する設定を変更した後、その内容を記憶させておきたい場合は、電源を切る前にレジストメモリーボタン〔1〕～〔8〕のいずれかに記憶させてください。(→P60参照)

メモリーボタン〔1〕～〔8〕に記憶させないで電源を切ってしまった場合でも、電源を切る前の状態に戻すことができます。その状態に戻すには、まず電源を入れ、(M./TO DISK)(メモリー/トゥーディスク)ボタンを押しながら、(D.) (ディセーブル)ボタンを押してください。

こんなこともできる

- 音量を微調節できます。(→P26参照)
- 「TO LOWER」(トゥーロワー)機能を使うと、リードボイスまたはペダルボイスの音色を使って、下鍵盤で演奏できます。(→P70参照)
- ドットボタンを使うと、EL-50の全音色の中から、好みの音色を遊ぶことができます。(→P74参照)
- 上鍵盤では、アッパキーボードボイス、リードボイスのどちらの音色でも演奏できます。また、アッパキーボードボイスとリードボイスの両音色を使って、重ねて発音させることもできます。ただし、リードボイスの音は単音で発音されるため、和音で押さえても最高音だけ発音されます。

音色の発音状態を決める(ボイスコンディション)

音色群ごとに、タッチトーンやポリウムファイン（音量の微調節）、フィートの設定など、音色の発音状態（ボイスコンディション）を好みの状態にすることができます。

- 設定した発音状態は、その音色群のどの音色にも共通した設定になります。
- 設定した発音状態を他の設定といっしょに記憶させておきたい場合は、電源を切る前にメモリーボタン〔1〕～〔8〕のいずれかに記憶させてください。（→P 60参照）

■タッチトーンの設定

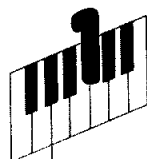
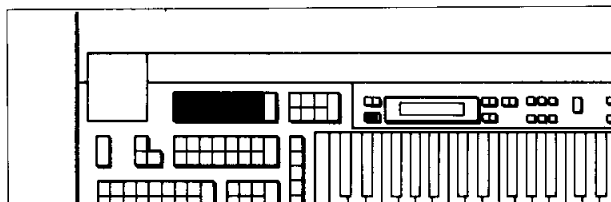
機能説明

音色群ごとに、タッチトーンの設定を変えることができます。

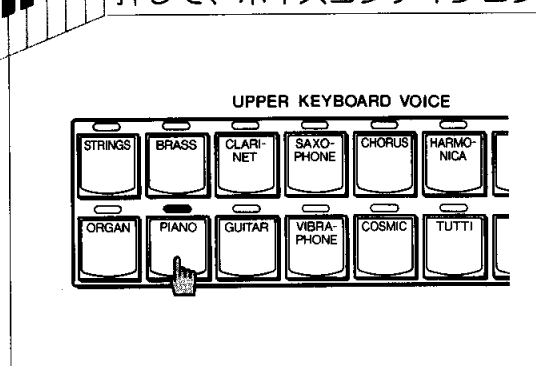
タッチトーンは、鍵盤をたたく強さや、押し込む強さによって音量・音色をコントロールする機能です。タッチトーンには、イニシャルタッチとアフタータッチの2種類あります。イニシャルタッチは、鍵盤をたたく強さで音量・音色をコントロールする機能で、アフタータッチは、鍵盤を押し込む強さでコントロールする機能です。

操作方法

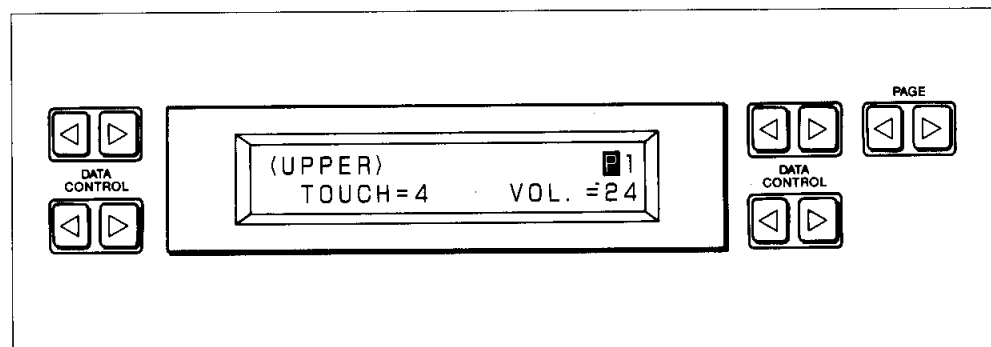
タッチトーンの設定を「6」にする操作を例にして説明します。
ペダルボイスには、タッチトーンはかかりません。



ランプが点灯しているアッパーキーボードボイスの音色ボタンを押して、ボイスコンディションの表示にします。



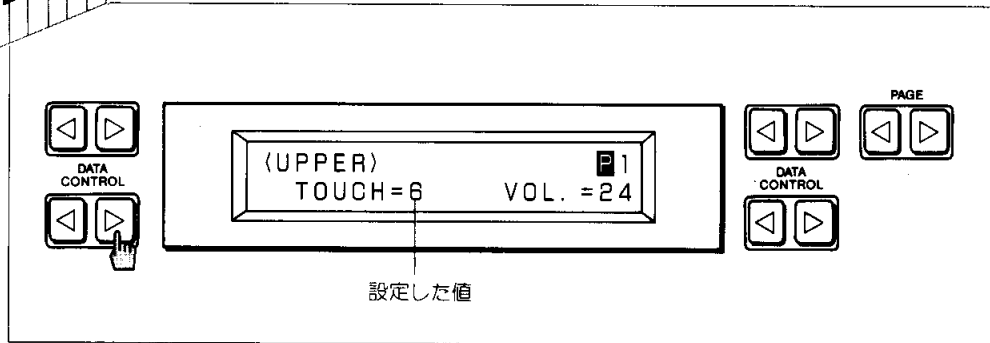
- すでにボイスコンディションの表示が出ている場合は、この操作は必要ありません。
- 音色ボタンを押すたびに、音色名の表示、ボイスコンディションの表示が交互に表示されます。



- 他のページが表示されている場合は、ページボタン〔<〕〔>〕を押して「P 1」を表示させます。



左下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、タッチトーンを「6」にします。



- 1～7の7段階の範囲で設定できます。

これで、タッチトーンの設定を変更できました。

注意

- オルガン、ハーブシコードなどに、タッチトーンはかかりません。

■ボリュームファイン(音量をより細かく設定する)

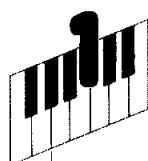
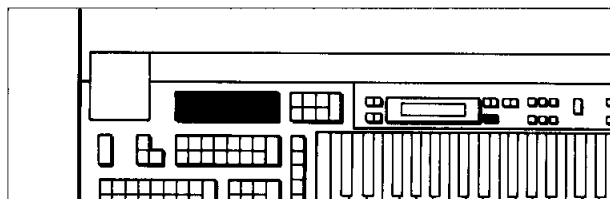
機能説明

音色群ごとに、音量を微調節できます。

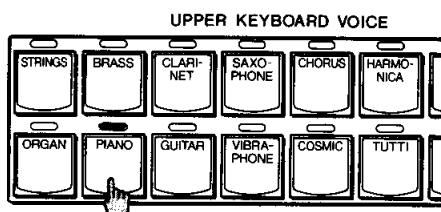
操作方法

アッパーキーボードボイスの音量を「17」にする操作を例にして説明します。

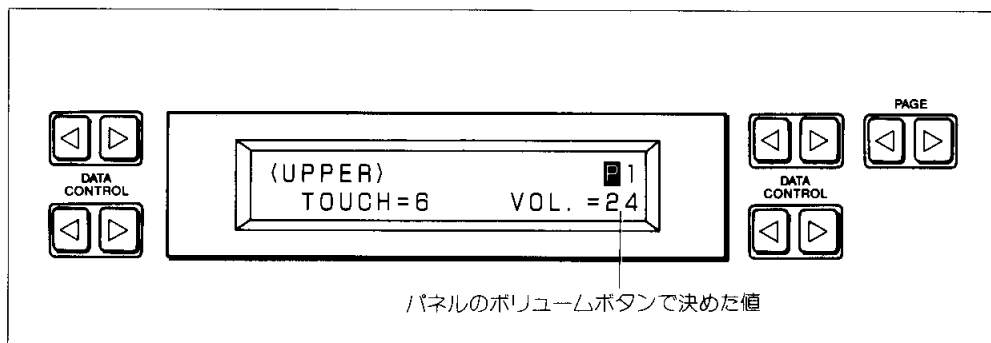
他の音色群の音量を微調節する場合も、操作は同様です。



ランプが点灯しているアッパーキーボードボイスの音色ボタンを押して、ボイスコンディションの表示にします。



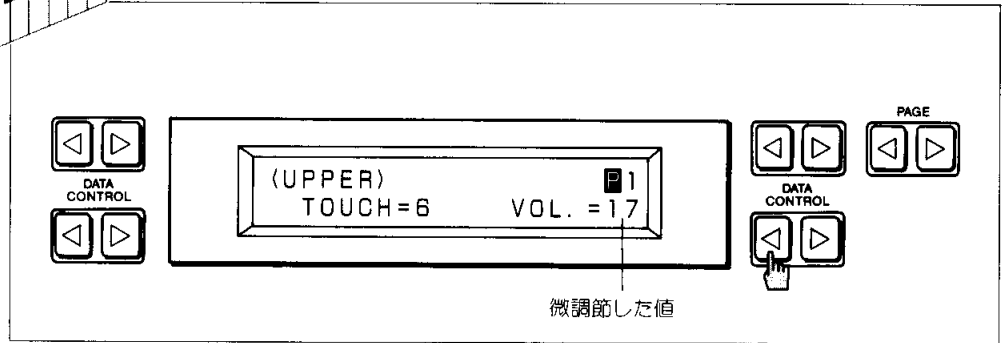
- すでにボイスコンディションの表示が出ている場合は、この操作は必要ありません。
- 音色ボタンを押すたびに、音色名の表示、ボイスコンディションの表示が交互に表示されます。



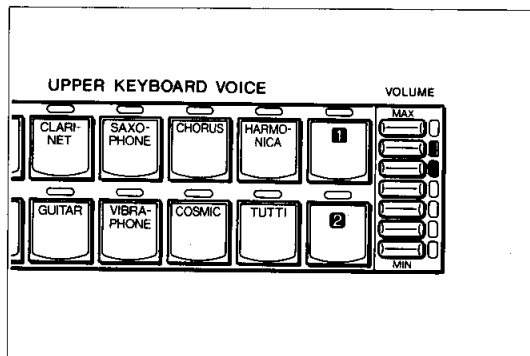
- ボリュームボタンで決めた音量設定値が表示されます。
- アッパーキーボードボイスの他のページが表示されている場合は、ページボタン[<][>]を押して「P1」を表示させます。



右下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、音量を「17」にします。



● 0～24の範囲で微調節できます。



● 音量を「17」にすると、ボリュームボタンのランプの2段目と3段目が点灯します。ボリュームボタンの2段目を押した場合と3段目を押した場合の間の値であることを意味します。

これで、アップーキーボードボイスの音量を、より細かく設定できました。

音色の発音状態を決める(ボイスコンディション)

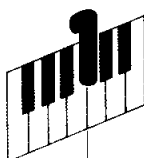
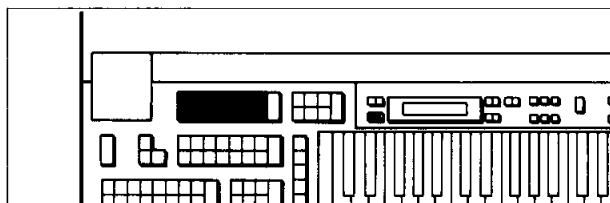
■フィートの設定

機能説明

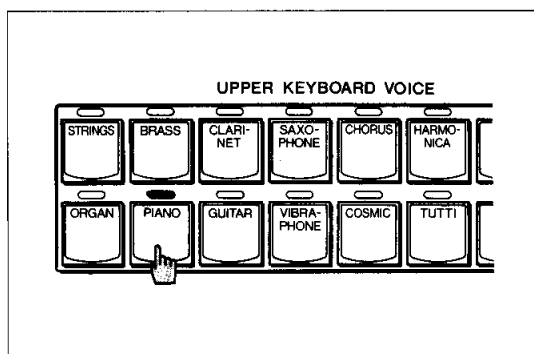
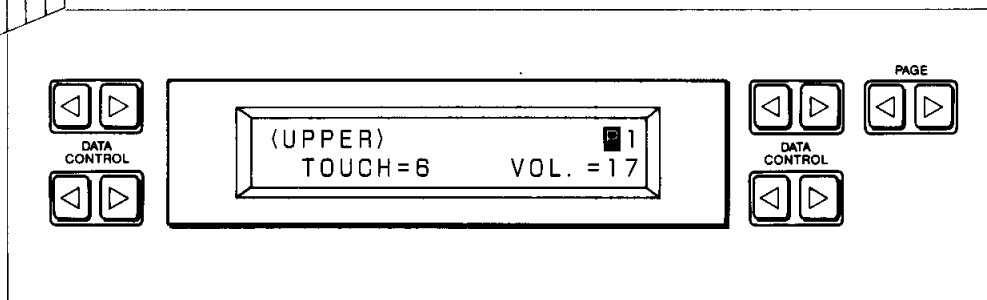
音色群ごとに、発音の高さをオクターブ単位で変えることができます。

操作方法

アッパーキーボードボイスの発音の高さを、4フィートに変更する操作を例にして説明します。
他の音色群の発音の高さを変更する場合も、操作は同様です。



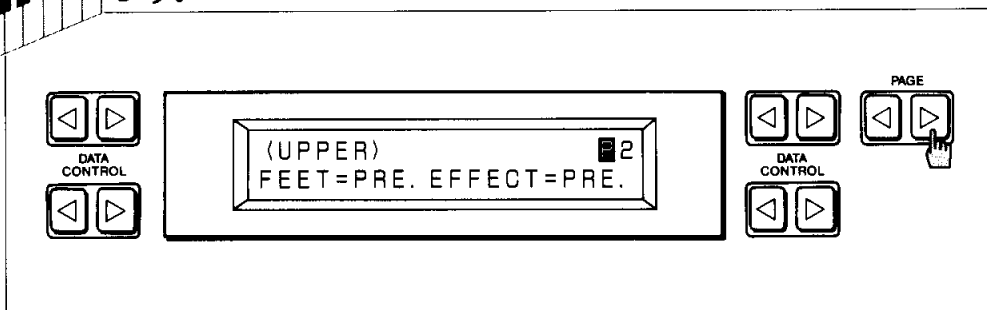
アッパーキーボードボイスのボイスコンディション表示になっていることを確認します。



- アッパーキーボードボイスのボイスコンディション表示になっていない場合は、ランプが点灯しているアッパーキーボードボイスの音色ボタンを押して、ボイスコンディションの表示にします。
- 音色ボタンを押すたびに、音色名の表示、ボイスコンディションの表示が交互に表示されます。

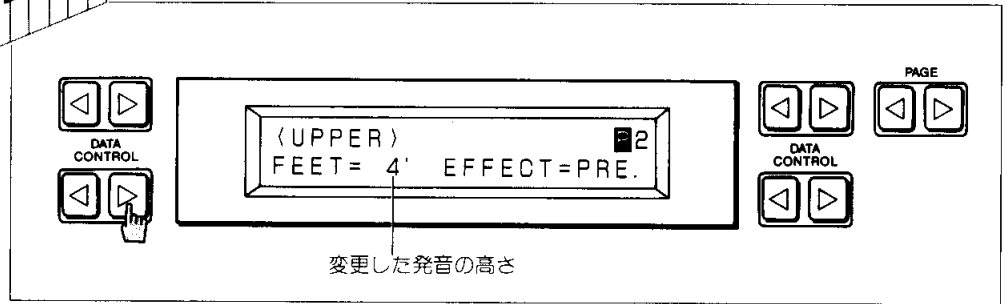


ページボタン(◀)(▶)を押して、2ページ目の「P2」を表示させます。





左下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、フィート(発音の高さ)を「4」にします。



●次の4種類の中で選択できます。

PRE.(プリセット)：その音色に おすすめの高さになります。

4'(4フィート)：基音よりも1オクターブ高くなります。

8'(8フィート)：基音の高さになります。

16'(16フィート)：基音よりも1オクターブ低くなります。

これで、アップーキーボードボイスの発音の高さが、1オクターブ高くなりました。

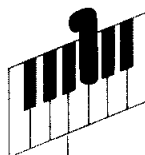
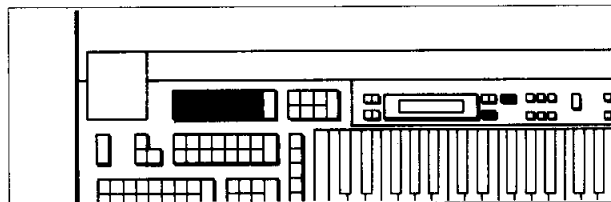
■エフェクトの選択

機能説明

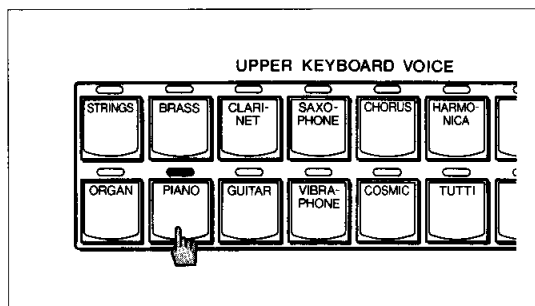
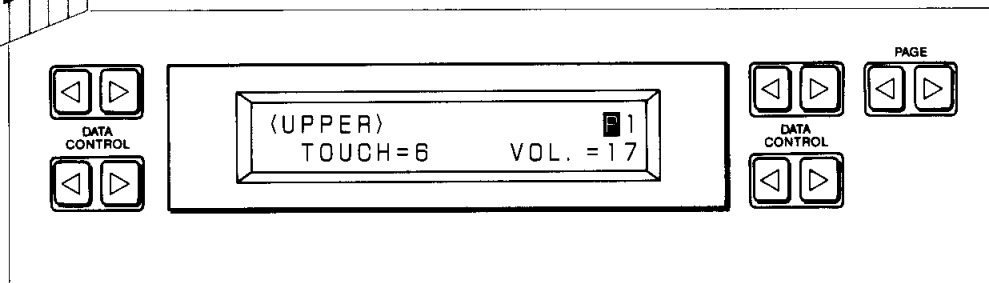
音色群ごとにかけることができる効果の種類を変えることができます。

操作方法

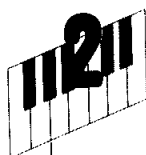
アッパーキーボードボイスの音色にかける効果を、シンフォニックに変更する操作を例にして説明します。



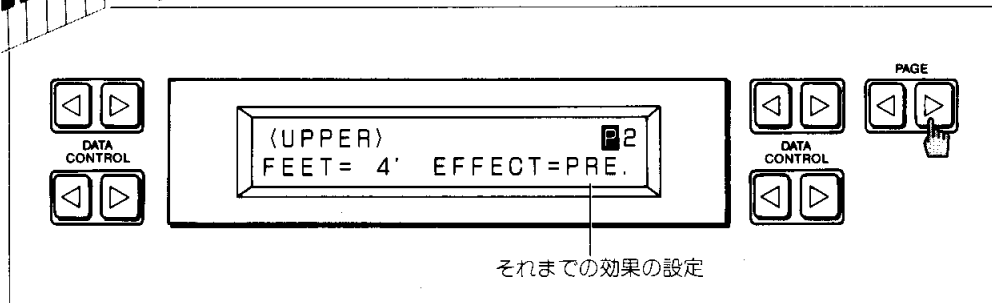
アッパーキーボードボイスのボイスコンディション表示になっていることを確認します。



- アッパーキーボードボイスのボイスコンディション表示になっていない場合は、ランプが点灯しているアッパーキーボードボイスの音色ボタンを押して、ボイスコンディションの表示にします。
- 音色ボタンを押すたびに、音色名の表示、ボイスコンディションの表示が交互に表示されます。



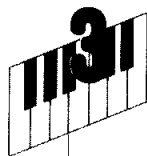
ページボタン(◀)(▶)を押して、2ページ目の「P2」を表示させます。



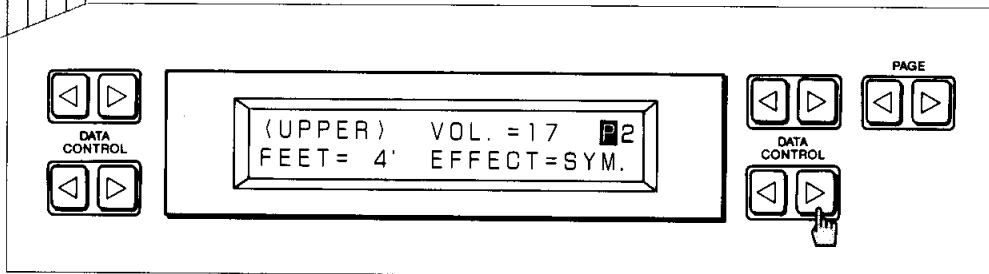
- すでに「P2」の表示が出ている場合は、この操作は必要ありません。



音 色



右下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、効果を「SYM.」(シンフォニック) にします。



● 次の6種類の中で選択できます。

- PRE.(プリセット) : その音色に おすすめの効果になります。
- OFF(オフ) : 効果が かかりません。
- TRM.(トレモロ) : 音が 高速で回転しているような感じになります。
- SYM.(シンフォニック) : 複数の楽器で演奏しているような厚みと広がりのある感じになります。
- DLY.(ディレイ) : 音がこだましているような感じになります。
- FLG.(フランジャー) : 音がうねって、複雑な感じになります。

これで、アップーキーボードボイスの音色にシンフォニック効果がかかりました。

■ビブラートの設定

機能説明

音色群ごとにかけることができるビブラート効果の設定を変えることができます。ビブラートは、音を振るわせる効果です。ビブラートの設定には、次の項目があります。

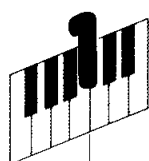
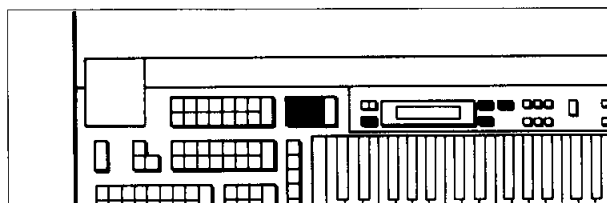
ビブラートの設定項目	設定内容	説明
USER VIB. (ビブラートの切り替え)	■(ユーザーモード) □(プリセットモード)	ビブラートの設定をユーザーモードにするか、プリセットモードにするかを切り替えます。
T. VIB. (タッチビブラートの設定)	■(オン) □(オフ)	鍵盤を押さえる強さによって、ビブラートがかかる深さを調節する機能を使うかどうか選びます。
VIB. DELAY (ビブラートタイレいの調節)	0~7	鍵盤を押してから、ビブラートがかかるまでの時間を8段階で調節します。
VIB. DEPTH (ビブラートアプスの調節)	0~7	ビブラートがかかる深さを8段階で調節します。
VIB. SPEED (ビブラートスピードの調節)	0~7	ビブラートの早さを8段階で調節します。

操作方法

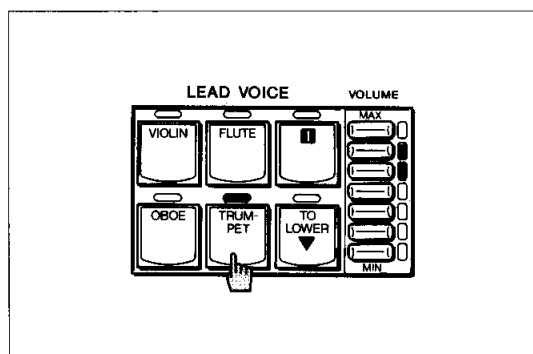
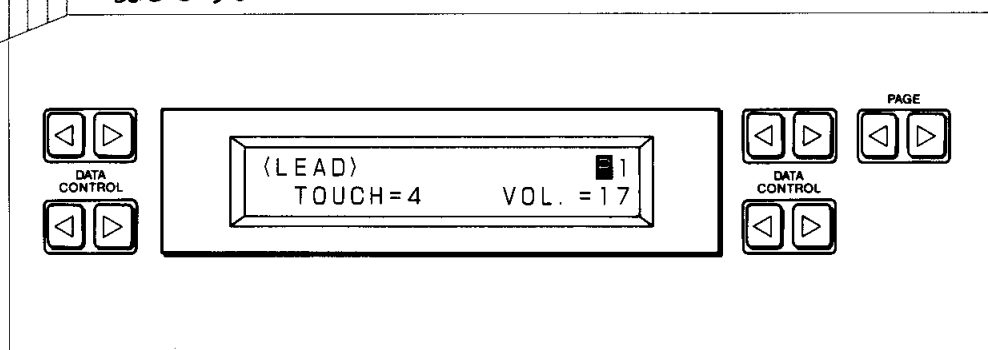
リードボイスのビブラート効果の設定を「USER VIB.」、「T. VIB.」をオン、「DELAY=3」、「DEPTH=5」、「SPEED=4」にする操作を例にして説明します。

アッパーキーボードボイス、ローキーボードボイスの場合は、「DELAY」および「SPEED」を設定することはできません。

ペダルボイスの場合は、ビブラートをかけることはできません。



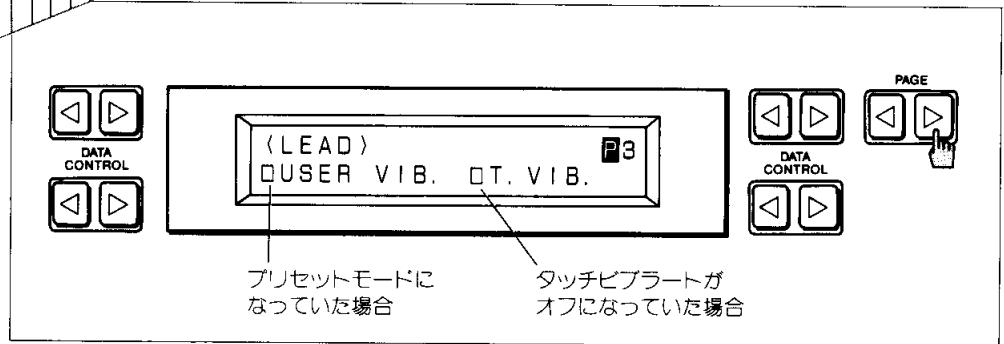
リードボイスのボイスコンディション表示になっていることを確認します。



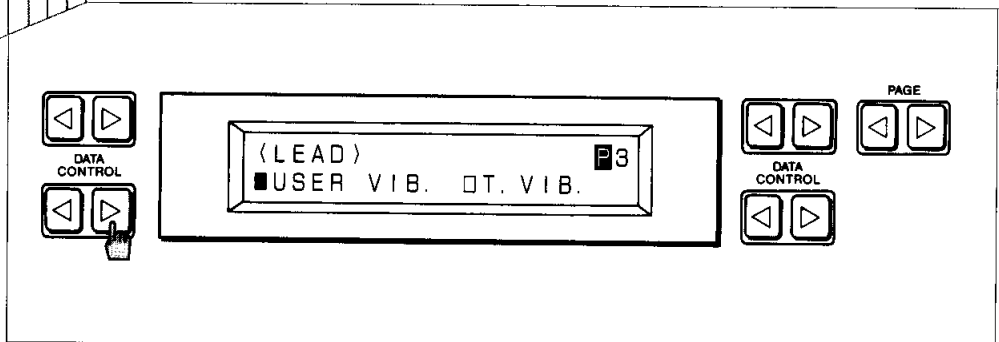
- リードボイスのボイスコンディション表示になっていない場合は、ランプが点灯しているリードボイスの音色ボタンを押して、ボイスコンディションの表示にします。
- 音色ボタンを押すたびに、音色名の表示、ボイスコンディションの表示が交互に表示されます。



ページボタン(◀)(▶)を押して、3ページ目の「P3」を表示させます。



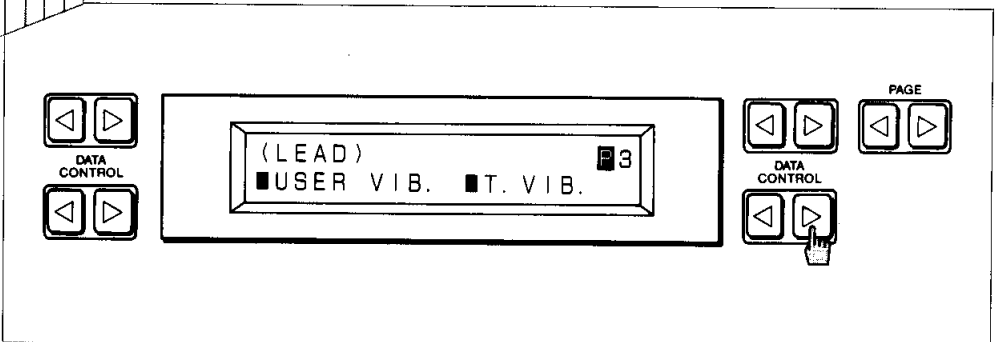
左下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、「USER VIB.」の「□」を「■」にします。



- USER VIB.(ユーザーモード) : ビブラートの設定が可能になります。
- USER VIB.(プリセットモード) : その音色群におすすめのビブラートの設定になります。

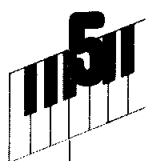


右下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、「T. VIB.」の「□」を「■」にします。

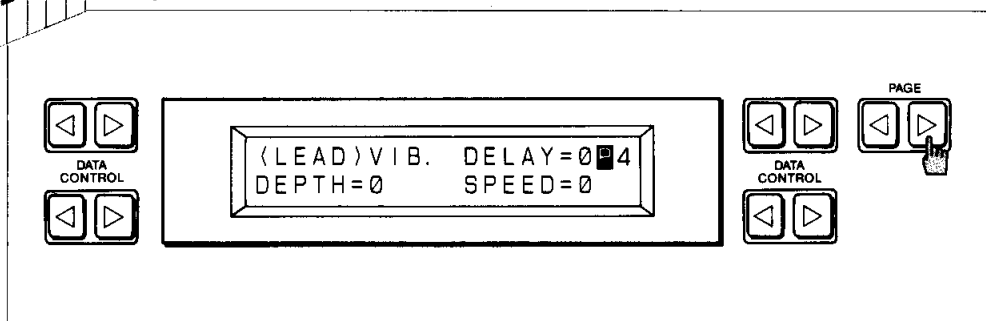


- (オン) : タッチビブラート機能がオンになります。
- (オフ) : タッチビブラート機能がオフになります。

音色の発音状態を決める(ボイスコンディション)



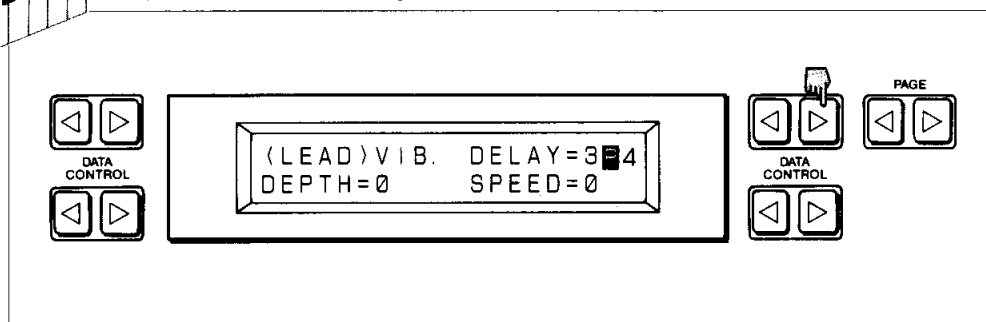
ページボタン(◀)(▶)を押して、4ページ目の「P4」を表示させます。



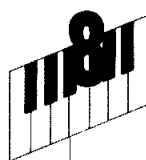
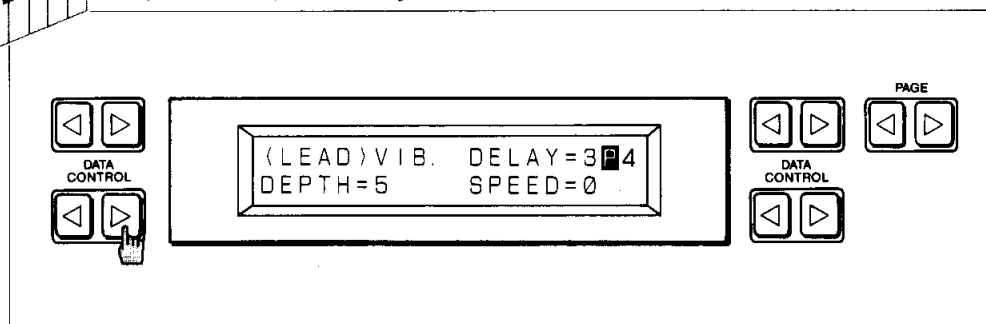
●「P3」でプリセットモードを選んだ場合は、「PRESET VIBRATO」の文字が表示され、「DELAY」、「DEPTH」、「SPEED」は設定できません。



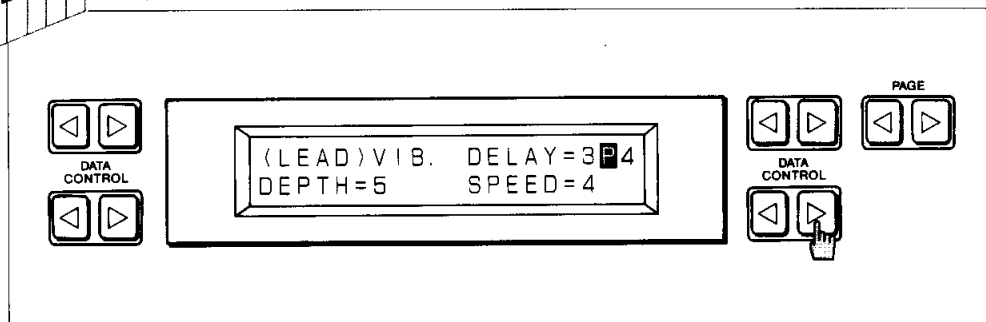
右上のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、「DELAY」の値を「3」にします。



左下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、「DEPTH」の値を「5」にします。



右下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、「SPEED」の値を「4」にします。



これで、リードボイスにビブラート効果をかけるための設定ができました。

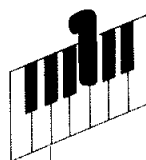
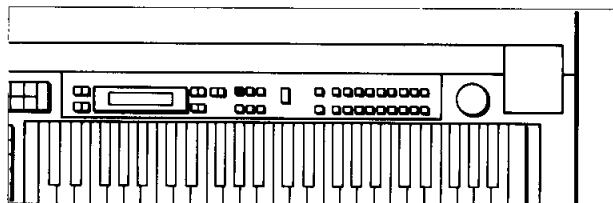


機能説明

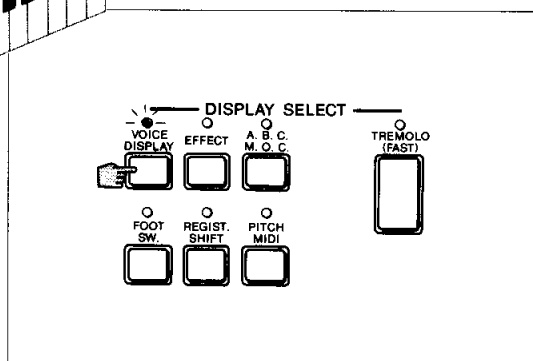
アッパークーボードボイス、リードボイス、ロワーキーボードボイス、ペダルボイスの現在の音色名を一度に表示させることができます。それぞれの音色群で、何という音色を選択済みかを一目で確認できます。

- 現在の音色設定を変えたくないが、何という音色が選択されているかを確認したい、という時に役立つ機能です。

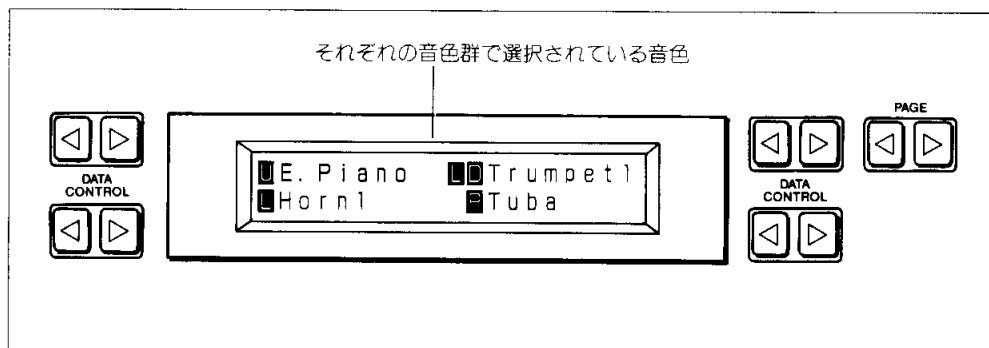
操作方法



(VOICE DISPLAY)(ボイスディスプレイ) ボタンを押します。



- (VOICE DISPLAY)(ボイスディスプレイ) ボタンを押した瞬間に、ランプが一瞬だけ点滅します。



- ディスプレイに、音色名が一度に表示されます。

これで、音色名の表示に戻りました。



操作のポイント

- 該当するボタンを押して元の表示に戻せば、設定を続行できます。

リズムを選ぶ(リズムメニュー)

機能説明

リズムを選び、リズムに合わせて演奏できます。

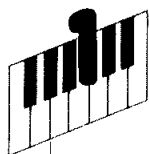
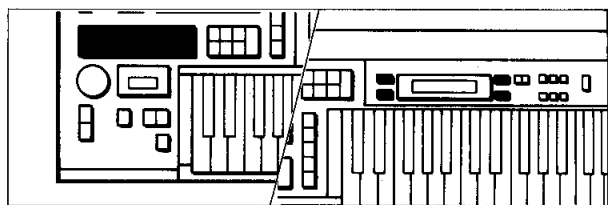
リズム一覧表

指定できるリズムの一覧表です。

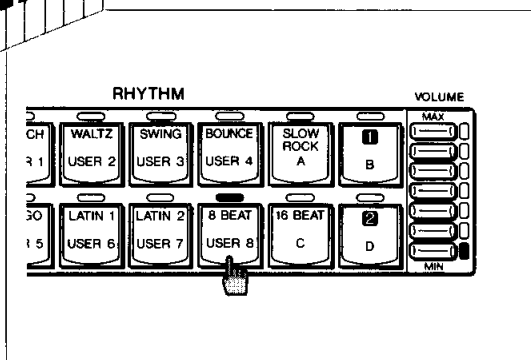
リズムボタン	リズムメニュー表示		解 説
マーチ	マーチ	ポルカ	軽快な2拍子または4拍子の、行進曲の リズム。
	カントリー	ブロードウェイ	
ワルツ	ワルツ1	ワルツ2	19世紀にヨーロッパ各地で広く愛好され た、3拍子の舞曲用のリズム。
	ジャズワルツ	ボレロ	
スイング	スイング1	スイング2	ジャズの代表的なリズム。
	ジャズバラード	ディキシー	
バウンス	バウンス1	バウンス2	弾むようなスイングジャズのリズムのと りかたの一種と、リズム&ブルースがも とになり生まれたジャマイカ産のリズム。
	レゲエ1	レゲエ2	
スローロック	スローロック1	スローロック2	3連符を基本にした、ゆったりした速さ のロックのリズム。
	スローロック3	—	
タンゴ	タンゴ1	タンゴ2	19世紀の後期にアルゼンチンで発生した ダンス用のリズム。
	タンゴ3	—	
ラテン1	チャチャ	ルンバ	中・南米の音楽の基本となるリズム。
	ビギン	マンボ	
ラテン2	サンバ1	サンバ2	中・南米の音楽の基本となるリズム。
	ボサノバ1	ボサノバ2	
8ビート	8ビート1	8ビート2	8分音符を基本とした、ロックでよく使 われるリズム。
	8ビート3	ダンスポップ	
16ビート	16ビート1	16ビート2	16分音符を基本としたリズム。
	16ビート3	ファンク	

操作方法

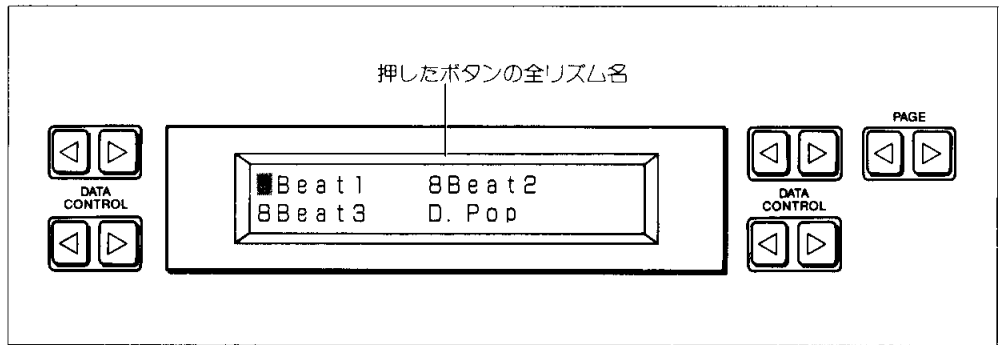
8ビートの「D. Pop」(ダンスポ
ップ)のリズムにして、リズムの
音量を最大にする操作を例にして
説明します。



(8 BEAT)(8ビート)ボタンを押します。



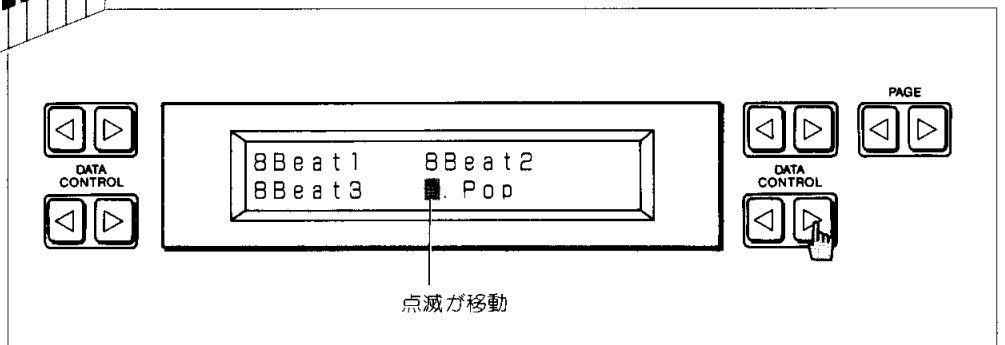
●(8 BEAT)(8ビート)ボタンのラ
ンプが点灯します。



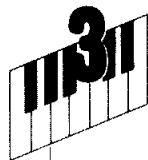
- ディスプレイには、〔8 BEAT〕(8ビート) ボタンに属するリズム名が、全て表示されます。(リズムメニュー画面)
- それまで選ばれていたリズム名の頭文字が点滅します。(頭文字と黒い四角の交互表示)



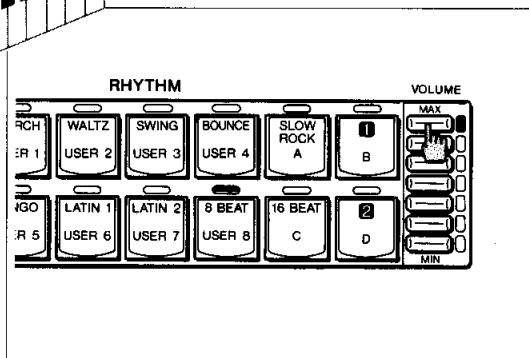
右下のデータコントロールボタン〔<〕〔>〕を押します。



- 「D. Pop」の頭文字の「D」が点滅に変わります。
- これで、「D. Pop」のリズムになりました。



リズムのボリュームボタンを押します。



リズムを選ぶ(リズムメニュー)

♪ 操作のポイント

- 各リズムボタンごとに、最後に選択したリズムが記憶されています。このため、操作①で希望するリズムが呼び出された場合は、操作②は必要ありません。

注意

- 電源を入れた時は、基本レジストレーション1のリズム設定(マーチ)になります。リズム名やリズムに関する設定を変更した後、その内容を記憶させておきたい場合は、電源を切る前にレジストメモリーボタン(1)～(8)のいずれかに記憶させてください。(→P80参照)

メモリーボタン(1)～(8)に記憶させないで電源を切ってしまった場合でも、電源を切る前の状態に戻すことができます。その状態に戻すには、まず電源を入れ、(M./TO DISK)(メモリー/トウーディスク)ボタンを押しながら、(D.)(ディスプレイ)ボタンを押してください。

こんなこともできる

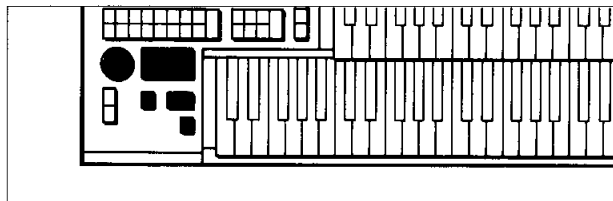
- 音量を微調節できます。(→P44参照)
- 「リズムプログラム・パターン」で自分でリズム/パターンを作ることができます。(→P86参照)
- 「リズムプログラム・シーケンス」でリズムの再生順序を記憶させることができます。(→P114参照)



機能説明

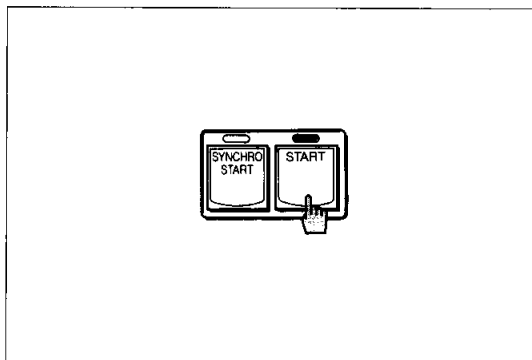
リズムをコントロールするための様々な機能を紹介します。

操作方法



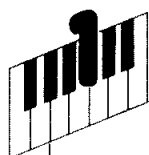
■リズムをスタート/ストップさせる

〔START〕(スタート)ボタンを押します。

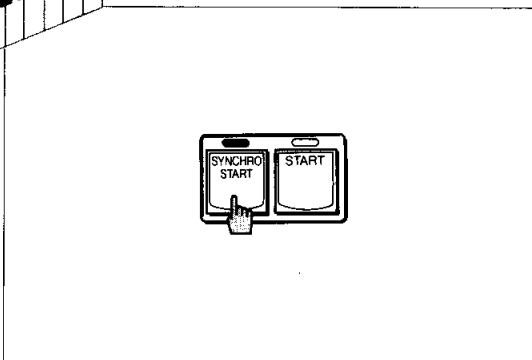


- リズムがストップしているときに押すと、ランプが点灯してスタートします。
もう1度押すと、ランプが消灯してストップします。

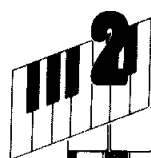
■鍵盤を押すと同時にリズムをスタートさせる (シンクロスタート)



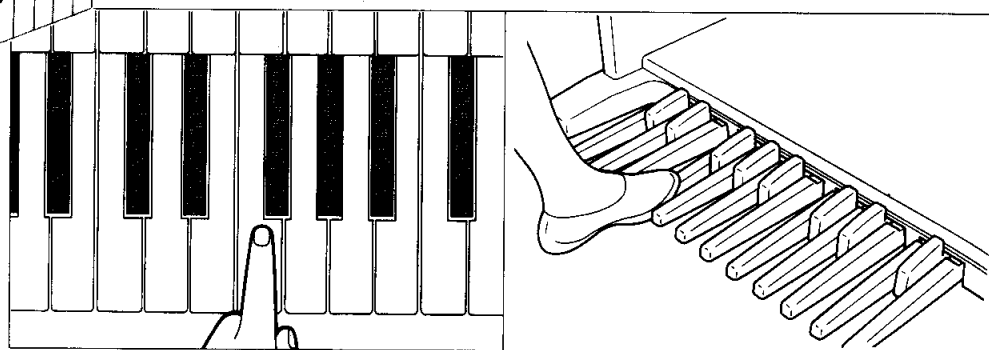
〔SYNCHRO START〕(シンクロスタート)ボタンを押します。



- ランプが点灯します。

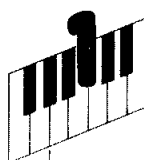


下鍵盤またはペダル鍵盤を押します。

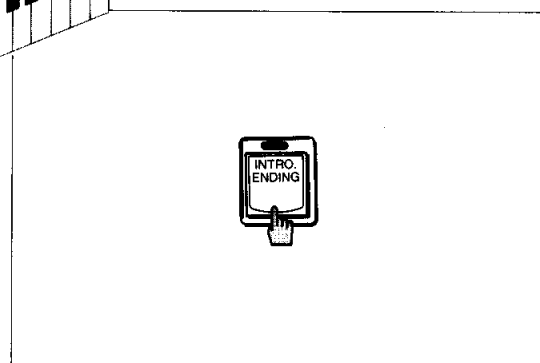


- 下鍵盤またはペダル鍵盤を押すと同時に、リズムがスタートします。
- リズムだけでなく伴奏を付けるときにも、便利な機能です。
- シンクロスタートさせた場合は、〔SYNCHRO START〕(シンクロスタート)ボタンを押してリズムをストップさせます。

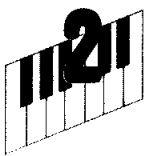
■イントロパターンからリズムをスタートさせる



〔INTRO./ENDING〕(イントロ／エンディング)ボタンを押します。



- 〔INTRO./ENDING〕(イントロ／エンディング) ボタンのランプが点灯します。

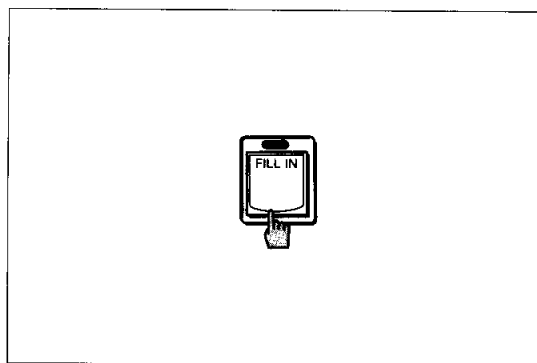


〔START〕(スタート)ボタンを押すか、またはシンクロスタートの方法で、リズムをスタートさせます。

- イントロパターンからリズムがスタートします。

■フィルインを入れる

〔FILL IN〕(フィルイン)ボタンを押します。

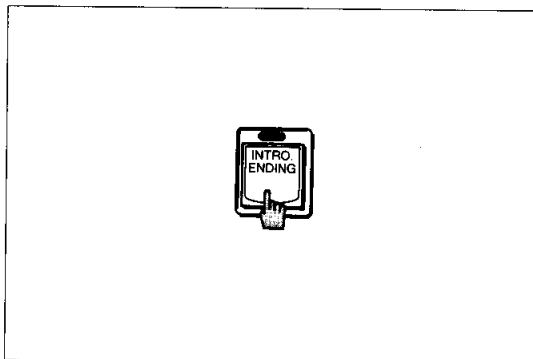


- 〔FILL IN〕(フィルイン)ボタンのランプが点灯してフィルインが入ります。
- 1回のフィルインを入れる場合は、1回押します。
- 2回以上のフィルインを入れる場合は、その間押し続けます。



■エンディングパターンでリズムをストップさせる

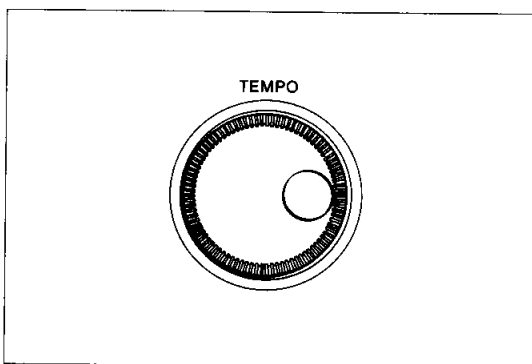
(INTRO./ENDING)(イントロ/エンディング)ボタンを押します。



- エンディングパターンが終わると、消灯してストップします。

■テンポを調節する

テンポダイヤルを回して調節します。



- ♩=40～240の範囲で調節できます。
- 時計回りに回すと値が大きくなり、テンポが速くなります。
- 反時計回りに回すと値が小さくなり、テンポが遅くなります。

■テンポ、バー/ビートディスプレイについて

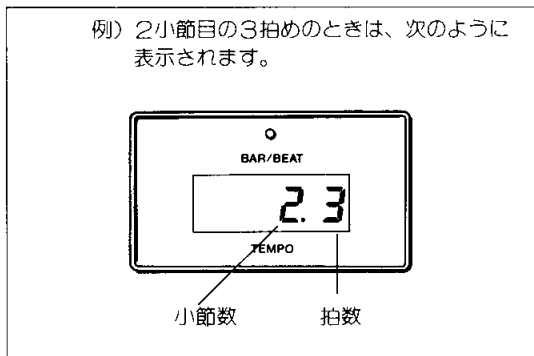
テンポを調節すると、テンポの値を表示します。



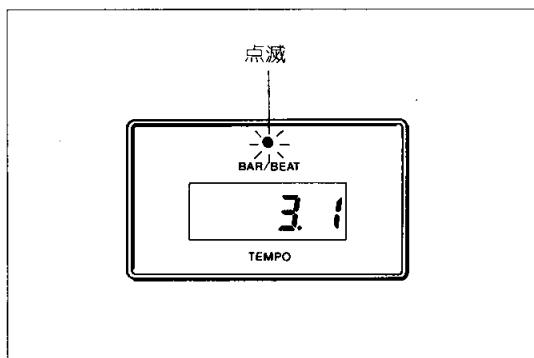
リズムを鳴らす

リズムをスタートさせると、小節数と拍数が表示されます。

例) 2小節目の3拍めのときは、次のように表示されます。



- 小節数は最大で255小節まで、拍数は1小節内の拍数を表示します。
- イントロパターンの中は、小節数の前に「-」が表示されます。たとえば8小節のイントロのときは、「-8」～「-1」まで、小節ごとにカウントされます。



- リズムをスタートさせると、設定したテンポに従い、各小節の1拍目にランプが点滅します。
- (SYNCHRO START) (シンクロスタート) ボタンを押し、鍵盤を押すまでは、1拍ごとにランプが点滅します。

こんなこともできる

- フィルインパターンからリズムをスタートさせることもできます。
〔FILL IN〕(フィルイン) ボタンを押した後、〔START〕(スタート) ボタンを押すか、またはシンクロスタートの方法でリズムをスタートさせます。
- イントロパターンの代わりに、4拍～2拍のタクト(カウント音)からスタートさせることもできます。
〔INTRO./ENDING〕(イントロ/エンディング) ボタンを押しながら〔START〕(スタート) ボタンを押すことにより、タクトからスタートします。
〔SYNCHRO START〕(シンクロスタート) ボタンを押した後、〔INTRO./ENDING〕(イントロ/エンディング) ボタンを押しながら下鍵盤またはペダル鍵盤を押してもタクトからスタートします。
- リズムのスタート/ストップ、エンディング、フィルインなどを左フットスイッチでコントロールすることもできます。(→P135参照)

注意

- シンクロスタートさせた場合は、〔START〕(スタート) ボタンを押してもストップしません。
- 〔START〕(スタート) ボタンを押してスタートさせた場合は、〔SYNCHRO START〕(シンクロスタート) ボタンを押してもストップしません。
- イントロパターンまたはエンディングパターンの最中は、下鍵盤の音は発音されません。
- イントロパターンおよびエンディングパターンの長さは、選択したリズムにより異なります。

リズムに関する設定をする(リズムコンディション)



リズム

リズムのボリュームファイン(音量の微調節)やアカンパニメントの設定など、リズムに関する設定(リズムコンディション)を好みの状態にすることができます。

- リズムに関する設定は、どのリズムにも共通した設定になります。
- リズムに関する設定を他の設定と一っしょに記憶させておきたい場合は、電源を切る前にメモリーボタン〔1〕～〔8〕のいずれかに記憶させてください。(→P60参照)

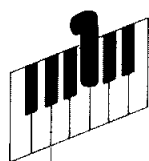
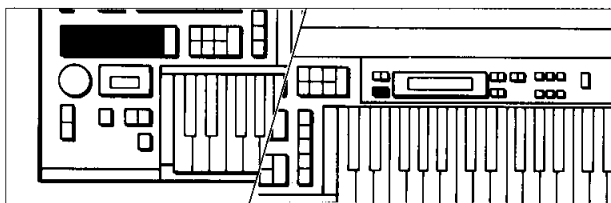
■オートバリエーションの設定

機能説明

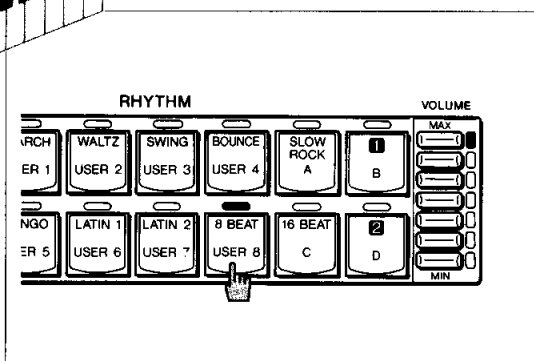
リズムの4小節目と8小節目のパターンを、自動的に変化させることができます。

操作方法

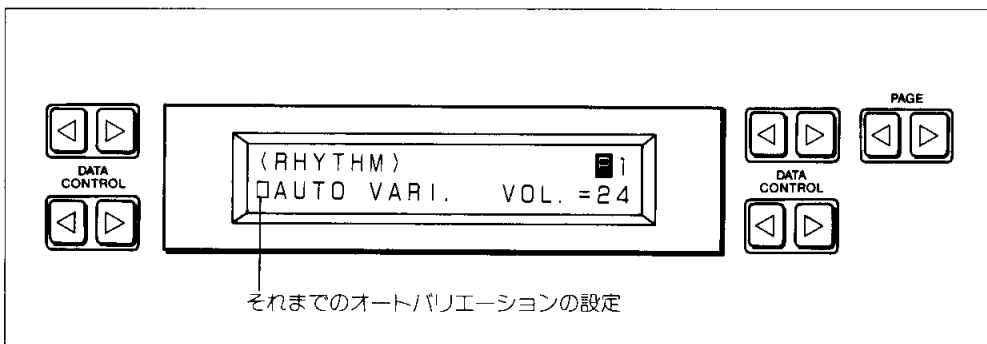
オートバリエーション機能の「AUTO VARI.」を「■」(オン)にする操作を例にして説明します。



ランプが点灯しているリズムボタンを押して、リズムコンディション表示にします。



- リズムボタンを押すたびに、リズム名の表示、リズムコンディションの表示が交互に表示されます。

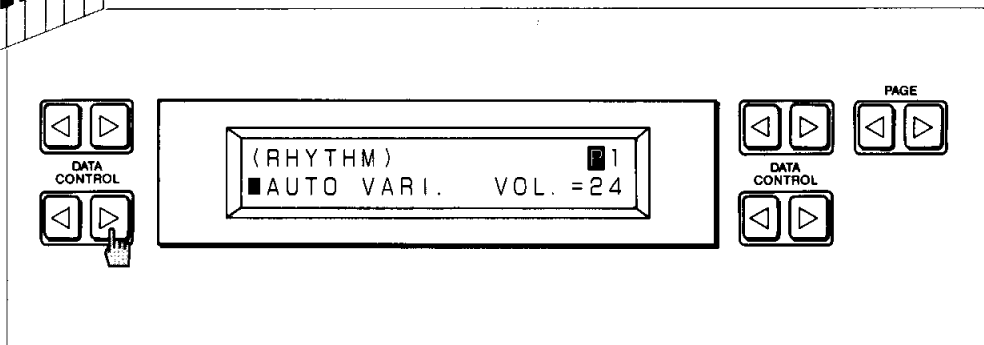


- それまでの「AUTO VARI.」の設定が表示されます。
- 他のページが表示された場合は、ページボタン〔<〕〔>〕を押して「P 1」を表示させます。

リズムに関する設定をする(リズムコンディション)



左下のデータコントロールボタン〔◀〕〔▶〕を押して、〔AUTO VARI.〕を「■」にします。



- (オン)：オートバリエーション機能がオンになります。
- (オフ)：オートバリエーション機能がオフになります。

これで、オートバリエーション機能の設定ができました。

■ボリュームファイン(音量をより細かく設定する)

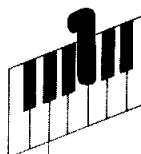
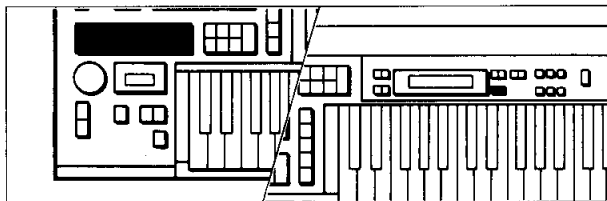
機能説明

リズムの音量を微調節できます。

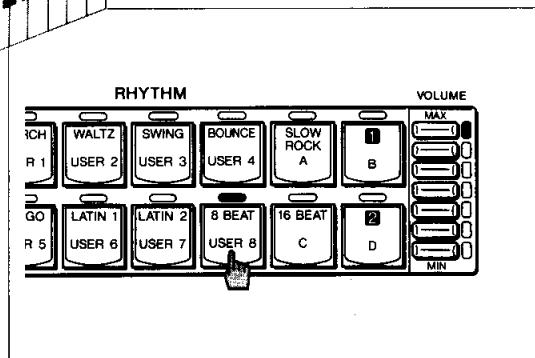
- キーボードパーカッション機能を使って打楽器演奏するときも、ここで設定した音量で鳴ります。

操作方法

リズムの音量を「21」にする操作を例にして説明します。



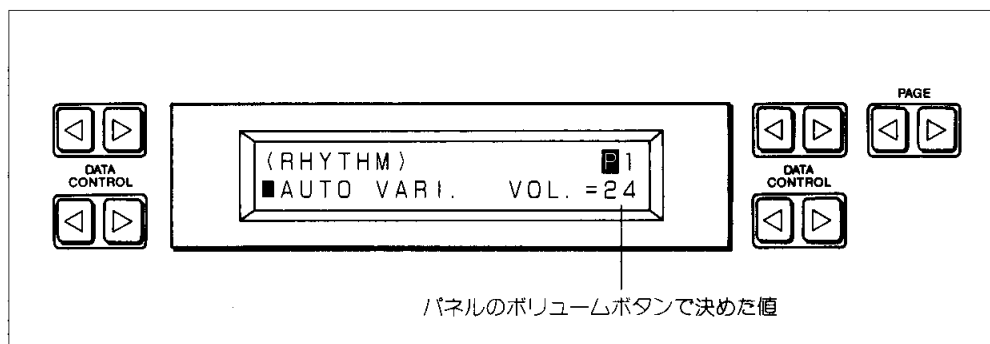
ランプが点灯しているリズムボタンを押して、リズムコンディションの表示にします。



- すでにリズムコンディションの表示が出ている場合は、この操作は必要ありません。
- リズムボタンを押すたびに、リズム名の表示、リズムコンディションの表示が交互に表示されます。



リズム

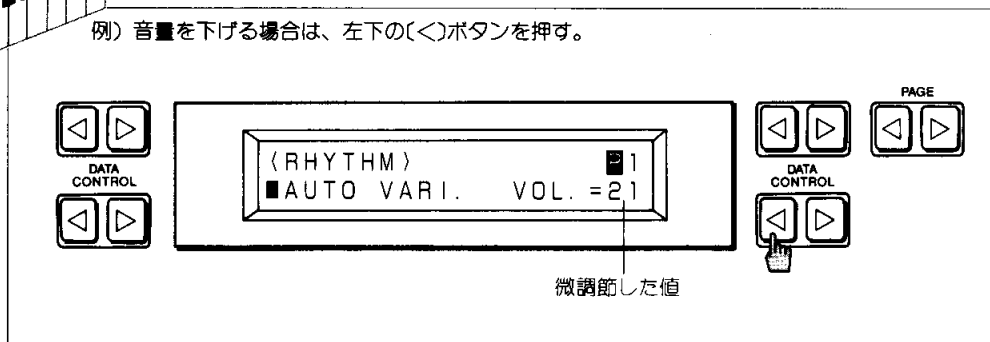


- ボリュームボタンで決めた音量の設定値が表示されます。
- 他のページが表示されている場合は、ページボタン〔＜〕〔＞〕を押して「P1」を表示させます。

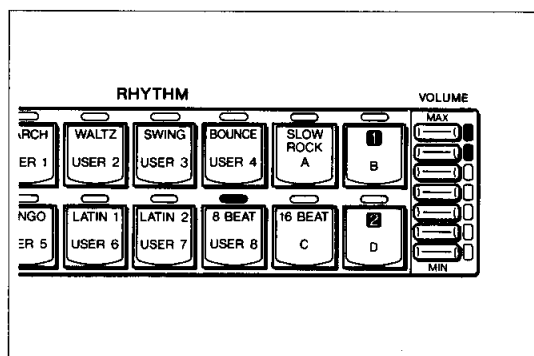


右下のデータコントロールボタン〔＜〕〔＞〕を押して、音量を「21」にします。

例) 音量を下げる場合は、左下の〔＜〕ボタンを押す。



- 0～24の範囲で微調節できます。



- 音量を「21」にすると、ボリュームボタンのランプの最上段と2段目が点灯します。ボタンの最上段を押した場合と、2段目を押した場合の間の値であることを意味します。

これで、リズムの音量をより細かく設定できました。

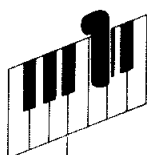
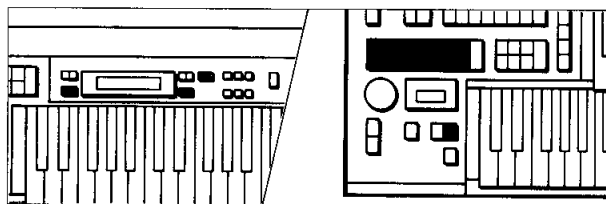
■アカンパニメントの設定

機能説明

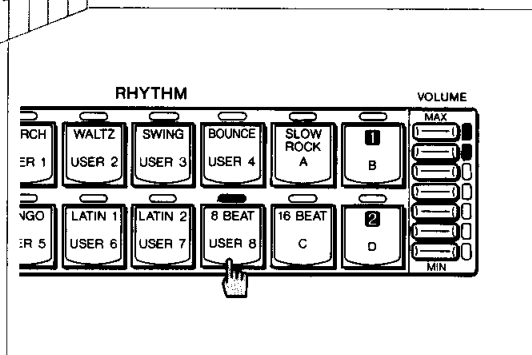
アカンパニメント(伴奏)を付けることができます。アカンパニメントの種類には、4つのタイプがあります。それぞれのタイプは、リズムの種類によって異なります。

操作方法

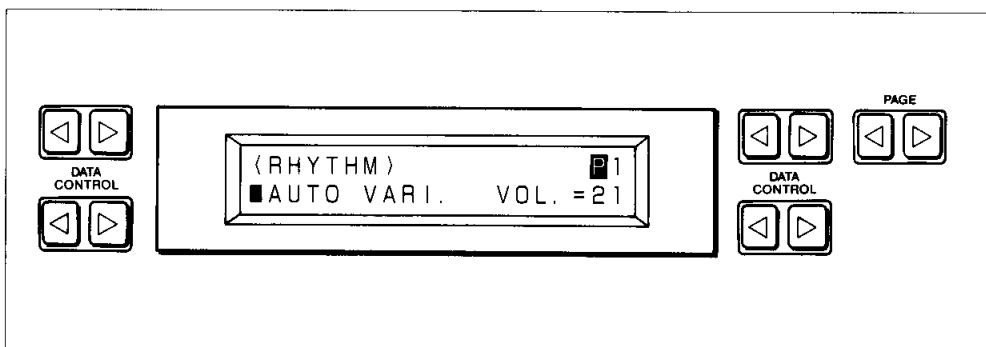
アカンパニメントの「TYPE」(タイプ)を「2」、アカンパニメントの「VOL.」(ボリューム)を「20」にする操作を例にして説明します。



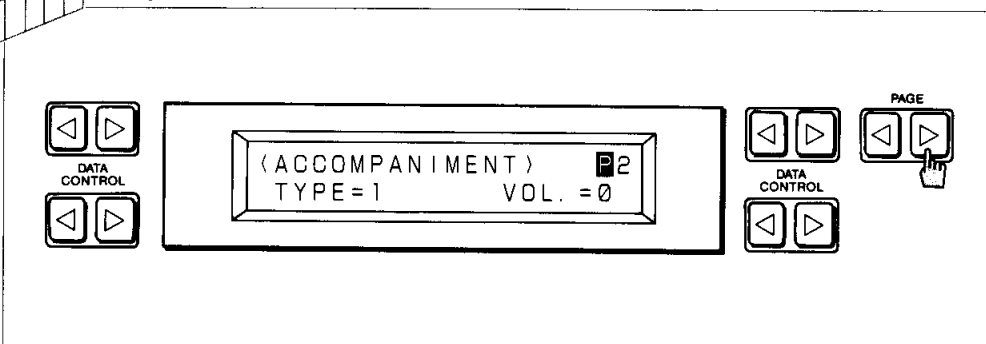
ランプが点灯しているリズムボタンを押して、リズムコンディションの表示にします。



- すでにリズムコンディションの表示が出ている場合は、この操作は必要ありません。
- リズムボタンを押すたびに、リズム名の表示、リズムコンディションの表示が交互に表示されます。



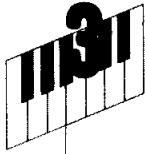
ページボタン(◀)(▶)を押して、2ページ目の「P2」を表示させます。



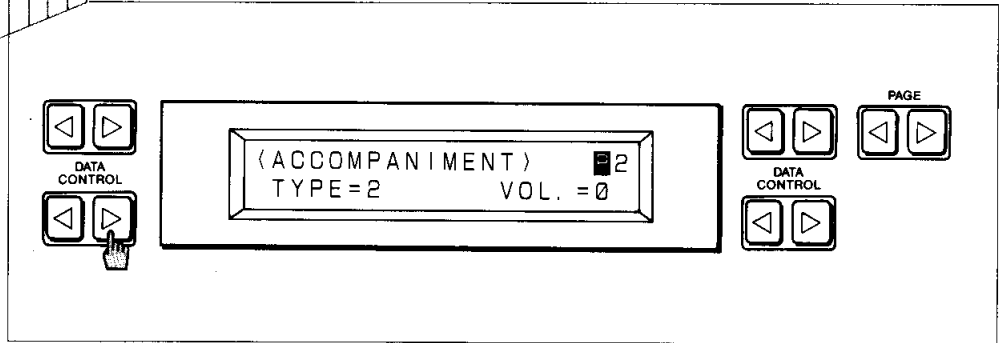
- アカンパニメント(リズムコンディションの「P2」)の表示になります。



リズム



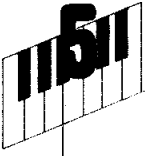
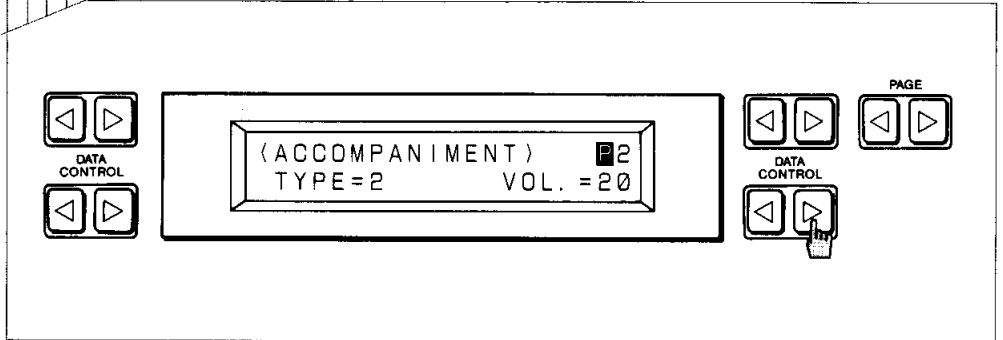
左下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、「TYPE」を「2」にします。



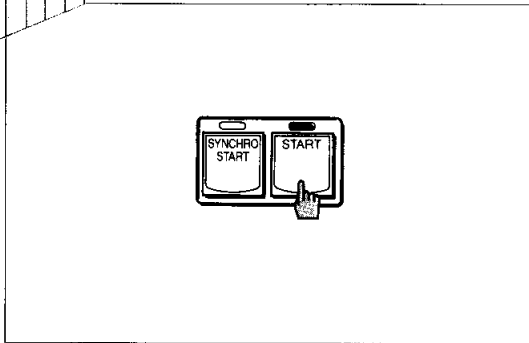
●アカンパニメントの「TYPE」は「1」～「4」の範囲で設定できます。



右下のデータコントロールボタン(◀)(▶)を押して、アカンパニメントの「VOL.」を「20」にします。



(START)(スタート)ボタンを押して、下鍵盤を押します。



●リズムをスタートさせないと、アカンパニメントは鳴りはじめません。

これで、リズムに加えてアカンパニメント(伴奏)を付けることができました。

こんなこともできる

○アカンパニメントは、A.B.C.(オートベースコード)機能と同時に使うことができます。詳しくは、P50をご覧ください。

注意

●アカンパニメントの機能を使う場合は、アカンパニメントのボリュームを上げてください。ボリュームが最低になっているとアカンパニメントは鳴りません。

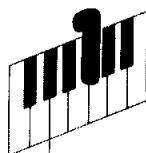
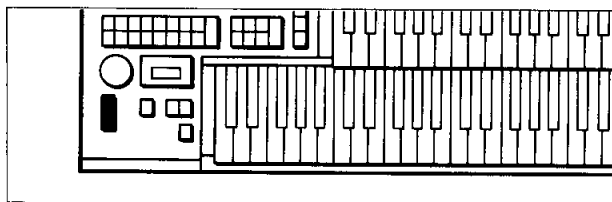
下鍵盤とペダル鍵盤に割り当てられている打楽器の音は、次の通りです。



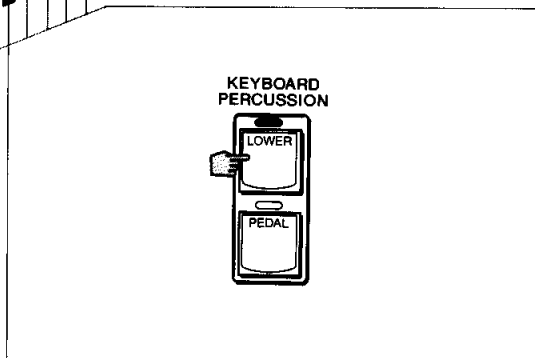
リズム

操作方法

下鍵盤、ペダル鍵盤の両方で、打楽器音を発音するように設定する操作を例にして説明します。



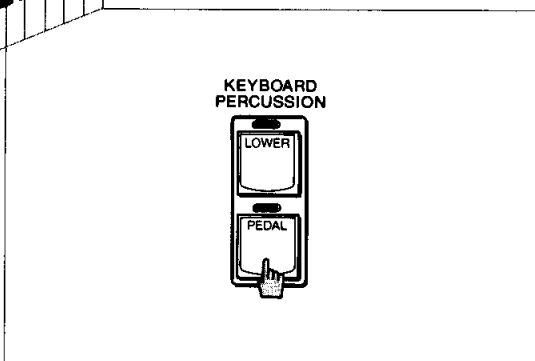
キーボードパーカッションの〔LOWER〕(ロワー) ボタンを押します。



- 〔LOWER〕(ロワー) ボタンのランプが点灯します。



キーボードパーカッションの〔PEDAL〕(ペダル) ボタンを押します。



- 〔PEDAL〕(ペダル) ボタンのランプが点灯します。

- リズムのポリリュームまたは、リズムコンディションの1 ページ目にあるポリリュームで音量を調節してください。詳しくは、P44をご覧ください。
- キーボードパーカッションだけの音を発音させたい場合は、ロワーキーボードボイスやペダルボイスのポリリュームを最小にしてください。
- キーボードパーカッションのボタンをもう一度押すと、打楽器の音は出なくなります。

これで、下鍵盤とペダル鍵盤の両方で打楽器の音が発音できるようになりました。